明治二十七年八月二十五日第三種郵便物認可

October 20th 1907.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 185

大日本蠶絲會報

第百八拾五號

本號要目

●汽鑵給水用としての水質井に其改良法に就て　農學士　中村雅次郎

●「フォルマリン」分析中「アルカリー」法に於ける疑問の一二　東京蠶業講習所技手　坪井啓作

●軟化病に就て　岩手縣蠶學校教諭　池田榮太郎

●秋蠶種の輸送方法に就て　理學博士　舘三之吉

●韓國の柞蠶　佐々木忠次郎

●予は如何に一道三縣を視察したるか　農學士　石渡繁胤

●生絲の賣行と予の希望　生絲製造家　新井領一郎

●割烹　大日本割烹學會長　石井泰次郎

●桑樹害蟲驅除法　農學士　明石弘

●秋蠶の話　蠶業講習所技師　土屋泰

●韓國の蠶業　勸業模範場技手　長岡哲三

●對清蠶業案　在上海東亞同文書院　渡邊繁三

TOKYO.
The Association;
No. 2 Mito-shirodo, Sunehome, Kanda, Japan

特許中原式生繭乾燥器

○本器は乾燥室内に大なる旋風器と繭を乗せたる棚枠と相俟つて回轉し外氣を送入しつゝ濕氣を充分排除する爲め大雨若しくは旋風器の回轉を怠たるに非らざれば溫度低き割合に乾燥時間短かく繭籠の差替へなく六時間内外にて完全なる乾燥を了す

○本器は養蠶家製絲家諸氏の御便利を計り火熱蒸氣の兩式ありて一回に一石五斗入六石入の小規模より大は一回數十百石入の構造あり

○今回新たに一回三石入を製し金具代金百三十五圓一石に付四十五圓の廉價にして器械の完全結果の良好なる從來製作のものに勝れり

○現時製絲家諸氏の尤も注意せらる可きは夏秋繭の乾燥なり普通の乾燥器にて本乾せらるゝ時は繭の色澤變化し之れを繰絲する時は解舒惡しき爲め止むなく絲量の減耗額節の多き生絲の緊縮等多大の不利益あるを了知せらるゝ今日尙虫止め半乾燥絲せらるゝ向あるは完全無缺の本器あるを知られざるが爲なり本器を以て本乾燥となし燥絲する時は額節の少なき在來の十分一にして色澤の優美なる殊に他器に比して絲量多く春繭一石に付き三十五匁夏季秋繭同五十匁以上の增量ある事は既設諸氏の御證明ある處なり此等は比類なき旋風器にて充分外氣を送入し宛も濕氣を排除する爲なり

●説明書は御請求次第送呈仕候

東京市本所區御右衛門町三十四番地

特許中原式乾燥器製作販賣所

長電話浅花二弐二六番電略（ナカ）又ハ（ナ）

新潟縣蠶絲會の合同

新潟縣は本邦唯一の產業地にして蠶絲の業に從事する者亦尠しとせず養に本會が地方支會を置くや卒先其支會を設置したるは實に同縣なりとす然るに其後別に新潟縣蠶絲會なるもの組織せられ兩會相並び立ちて活動する處ありしも斯業の統一的發達を圖らんが爲には之れが奬勵機關の個々分立するを以て不得策なりと爲し熟議する處ありしが愈去十月四日本會新潟支會總會の際兩會合同の議成立して爾今同心一體將來を俱にし同縣蠶絲業の爲に大に竭す處あらんとす慶賀の至りに堪へざるなり

惟ふに一狐の腋を以てして成らざるは獨り千金の裘のみにあらず大凡有機的關係を有せる現社會に在りては一部の細一動の微と雖も猶確乎たる協力と共心とを要す況や一國產業の改良發達をや同縣下の會員諸氏にして更に之れより一層の協心と共力とを以て其道に任ずるあらば縣下蠶絲業の改良發達寔に易々たるべく邦國の富强をして大ならしむる亦決して尠少にあらざるべし敢て之れを同縣會員諸君に囑す

明治四十年十月二十日

大日本蠶絲會

第百七十五號　大日本蠶絲會報

目次

論叢

○汽鑵給水用としての水質并に其改良法に就て　農學士　中村雅次郎

○「フォルマリン」分析中「アルカリー」法に於ける疑問の一二　東京蠶絲試驗所技手　坪井啓作

○軟化病に就て　岩手縣農學校教諭　池田榮太郎

拾芳

○秋蠶種の輸送方法に就て　信三之吉

叩門

○韓國の柞蠶　理學博士　佐々木忠次郎

○予は如何に一道三縣を視察したるか　農學士　石渡繁胤

○生絲の賣行と予の希望　生絲貿易業　新井領一郎

家庭

○園藝　大日本園藝會會長　石井泰次郎

講苑

○桑樹害蟲驅除法　農學士　明石弘

○秋蠶の話　蠶業試驗所技師　土屋泰

心影

○蠶絲界新井領一郎君の訃報を悼ぶ　農學士　石渡繁胤

○榮村君の逝去を悼ぶ　勸業視察兼技手　長岡哲三

○韓國の蠶業　在上海東亞同文書院　渡邊繁三

○對清蠶業策

問答

○桑樹仕立法に就き質問並答○蠶室の開放及上蔟後の墨蔟蠶に就き質問並答○枯凋桑給與に就き質問並答○蛆蠅及微塵蟲の驅除法に就き質問並答○育蠶中「フォルマリン」撒布に就き質問並答○製絲場の窓に就き質問並答

說林

○茨城縣下の四化蠶種製造家に警告す（坂入勇）○風穴貯蔵の蠶種に就て（座原千禱）○蠶種製造家の危機と養蠶家の注意（桑島定助）

絲況

○横濱市場○鼎里市場○紐育市場○廣東市場

時報

●會報錄事＝總裁殿下臨宴文會へ會員＝有功者の授與＝文會職員の囑託＝地方委員懇談會囑託＝總會員懇談會＝會員の推薦＝日伊協約成立の祝詞に對する謝狀＝絵葉書獨逸自費出版＝佛國會員の出張＝佐野會計事に參與＝新規定會第一回總會＝會員總會陸軍省の狀況

●蚕糸組織發見＝蠶の飼育法＝「フイヤセン」群島蠶種及國産入試＝本邦の組織機構＝産業組織＝産業組織と假人事化＝本邦の組織機構＝産業組織と假人事化＝産業組織＝蠶糸消費＝新刊紹介＝發行書目＝人事異動＝受領錄

去九月九日富山縣八尾町に於て大日本蠶絲會富山支會評品會褒賞授與式參列員左右の圖は松平會頭一行の爲に特に
當日飾立てられる八尾名著の山車中央の上圖は同縣波邊技師の意匠に成れる紀念繪葉書にして來會者一同に頒たれるものな
りなのもたれた

東京 東洋製版所印行

Messieurs les assistants à la cérémonie de la distribution des prix au concour agricole qui a eu lieu à notre succursale de Toyama le 9 septembre. Les images de droite et de gauche sont les fameux *dashi* (grand char orné de fleurs que l'on traine triomphalement dans les fêtes shintoïstes) de Yaomachi, exposés spécialement pour le témoignage de la réception sympathique faite à notre Directeur et à sa suite. L'image du milieu est la carte commémorative illustrée, distribuée à tous les assistants. Cette carte est conçne par Mr. T. Watanabe, ingénieur à la préfecture de Toyama.

大日本蠶絲會報　第百八拾五號

論叢

汽罐給水用としての水質並に其改良法に就て

學藝委員
蠶業講習所技師　農學士　中村雅次郎

器械製絲を營む上に汽罐の必要なることは申すまでもないことであるが、汽罐は之に使用する水質の如何により屢々損害を蒙むるのみならず、之が爲に恐るべき破裂の原因をなすことも稀れではない、然るに本年夏期偶々諏訪の或製絲家が此不幸なる災厄に遭遇されたことを耳にしたのである、故に貴重なる本誌面の一部を藉り、本題目を緒論と本論とに分ち緒論に於ては天然の水質に關する事項を簡易に述べ、本論に於ては汽罐に對する作用並に其改良法につき論ずることに致したる次第である。

緒論

本誌に於て余は屢論じたるが如く、理論上に於ける水は其組成極めて簡單なるものなれども、如此き理論上のものに適合する水は天然に於ては決して得られないのであつて、必ず多少の夾雜物のあることを免かれないのである、之等夾雜物の組合せ並に其分量の如何により「ヅラカウ」(Schaows)氏は天然水を次の如くに分類したのである。

一、雨水(雪霰等を含む)
二、普通水(井水、流水、炭酸鹽水、及び硫酸鹽水)
三、海　水
四、深井水
五、礦　水

以上五種類中普通製絲家の多く使用するものは普通水なれども、第四若くは第一を使用する場合も往々あるが故に、左に第二と併せて第一並に第四につき項を分ちて概論することに致したい。

甲　雨　水(雪霰を含む)

大氣中より落下する水、委しく云へば雨水雪水等は、天然水中純粹なるものなれども、之とて大氣中にある窒素、炭酸瓦斯等の諸瓦斯の外に、炭酸鹽、硫酸鹽、鹽化アンモニヤ」

並に食鹽等の鹽類をも溶解するのである、而して其分量は諸水の通路にある大氣の組成、氣温氣壓の如何によりて差異あるは勿論である、一般から論ずれば海岸附近に於ける雨水中には鹽類多く、又人家稠密なる都會近傍のものには有機物多きが普通である、而して該有機物中含窒素物は地面に下るに從ひ漸次增加する樣である、左に巴里の氣象臺に於ける分析成績を摘錄せんに。

觀測臺上採集の雨水		地面上採集の雨水	
窒素	六、三九七	アンモニヤ	七、九三九
アンモニヤ	三、三三四	硝酸	二、七六九
硝酸	一四、〇六九	鹽素	二、二八〇〇
鹽素	二、〇〇一	石灰	一、九四六
石灰	六、二二〇	苦土	五、三九七
苦土	二、一〇〇		二、三〇〇

但し前記の數量は雨水一立方（メートル）中に於けるもの。

以上の如く雨雪水等の中にも多少の夾雜物はあるが、概論すれば此種の水は天然水中最も純粹に近きものである。

乙　普通水

其の一　井水及び泉水

此二水共に雨水の地中を通過したるものである、扨て炭酸瓦斯及び酸素等を含有せる雨水は地中を通過する際、一方には炭酸瓦斯の助けによりて其通路に橫はる岩石類を溶解し他方に於て酸素並に細菌等の力によりて有機物質を分解し、「可燃物質を酸化し、乃至は石灰岩を分解する等の作用を營みて炭酸瓦斯を生ずるが故に、地下に深く進むに從ひ、水中の炭酸瓦斯の量を增加し、從て水の溶解力は益增進し、爲めに溶解物特に礦物質の量多くなるのである、以上の如き作用をなしつゝ、水は漸次地下に進み、最早浸透し、能はざる地層に達すれば、此處に地下の貯水や若くは流れを造るのであるが、此水こそ井水及び泉水の水源である。

此の如き理由の下に井水並に泉水の組成分は、其通過した地層の性質及び其の距離によりて差異を生ずるのであるが、要之、此種の水には、一般に礦物質特に石灰并に苦土の鹽類が比較的多量である。

其の二　流水（即ち川水）

此種の水源は前述の地下水と雨水とである、扨て地下に於て岩石の構造成分を溶解したる水は、其直接に溶解したるものと若くは或種のものに變質したる後溶解したるものとを問はず、地表面に達すれば溶解物質の一部分を再び游離するに至るのである、之れ礦物質の溶解を助くる炭酸瓦斯の一部分は地下水が地面上に表はれたる時、其中より飛散するが故である、而して地表面に出でたる水が更に川となり流れつゝある間に、炭酸瓦斯は更に逸出するが故に漸次水は溶解力を減少し、沈澱物を生ずるのである、此沈澱物は主として炭酸石灰并に炭酸苦土である。此の如く地下の水は地表面に表れ川となりて流れつゝある間に、漸次其溶解力を減少するも時々炭酸瓦斯を背へる雨水が川水に混ずるが故に、一時其溶解力を幾分か回復することあるも、結局水には元の地下水よりは礦物質特に石灰及び苦土の溶解量を減少するのである。

其の三　炭酸鹽水及び硫酸鹽水

前述べたる如く井水にあれ、泉水にあれ、將た流水にあれ、多少の石灰及苦土の炭酸鹽並に硫酸鹽を溶解することは勿論なるが、其分量甚だ多きに渉り、水一〇〇〇瓦中炭酸石灰の量〇・五瓦以上なるときは、之を特に炭酸鹽水と命名し、又同量の水中〇・二瓦以上の硫酸石灰を溶解するときは、特に之を硫酸鹽水と命名するのであるから、要するに非常に石灰質に富める水に、特に下した名稱に過ぎないので、即ち石膏床若くは石灰岩結晶岩等の岩石多き地層を通過したる水に、此種のものを見出すのである。

丙　深井水

之は深き地層より出づる水を稱するのである、此種の水も亦其通過する地層の性質如何によつて、水質の上に少からざる差異あるは勿論であるが、一般に硫酸鹽多きが普通である。其理由は次の變化を見れば明瞭である。

硫化岩又は硫化物は深き地下に於て次の變化を生ず

即ち一方には $2FeS + 2H_2O$（硫化鐵　水）$+ 9O = 2H_2SO_4 + Fe_2O_3$（酸化鐵）

酸素　硫酸　酸化鐵

（硫化岩）

但し石の變化は該硫化岩が地下に於て特別の酸化作用を生じたる後水の作用により起りたる場合

又他方には空氣を含有せる水の存在により硫化岩の酸化作用起るならば

$6FeS_2 2H_2O + 27O = 6FeO_4SO_4 + Fe_2(SO_4)_3 + 2H_2SO_4$

硫化鐵　炭酸　硫酸第一鐵　硫酸第二鐵　硫酸

（硫化岩）

以上の反應により生じたる硫酸は、其附近にある岩石特

大正三年十月三日　於埼玉縣北足立郡荒川村大字中尾村　荒川上流　採集地　（撮影者　長瀨氏八郎）

に石灰岩に作用して硫酸石灰を作り、之を溶解するのである から、深井水中には硫酸石灰は勿論微〻アルミナ「アルカリ」及び其他の硫酸鹽が普通含まして居る、要するに此種の水には礦物質の量多き方である。

本論

水の汽鑵に對する作用并に其改良法につきて

水中に溶解せる夾雜物質の種類如何により、汽鑵に對する水の作用の上に、自ら二樣の別がある、此差別よりして汽鑵給水用として水質を次の如く分類することが出來る。

(一)「スケール」(水洋)を形成する水

(二)汽鑵を腐蝕する水若くは腐蝕と「スケール」の兩方を兼ねる水

右の如く分類を試み逐次記載することにしたい。

(一)「スケール」(水洋)を形成する水

總て物質の溶解に關する現象は、汽鑵中の水が絶へず受けつゝある温度の上昇蒸沸蒸發濃厚并に壓力等の物理的作用によるもの多きが故に、水を永く沸騰すれば用水質の如何により多少の堆積物を生ずるのである、されば試しに汽鑵中を吟味すれば普通次のものを見出すのである。

(一)水面に浮びたる后乾き恰も塵埃狀の泡渣

(二)感觸柔かにして分解しやすい鹽性の塊り

(三)汽鑵の周緣に固着せる硬き固形狀の堆積物

「スケール」として知られるゝものは、此硬き固着性の堆積物であつて、其成分は主として石灰及苦土の鹽類であるから之等の鹽類を多く溶解せる水は勢ひ「スケール」を作ることが甚しいのである、今之につきて少しく詳かに述ぶれば、緒論に於て論じたる如く、炭酸瓦斯を溶解せる水は石灰及び苦土の炭酸鹽を溶解する力强きものなるが、此瓦斯の水に熔解する分量は壓力が一定ならば温度に反比例して增減するので換言すれば水よりは揚の中に此瓦斯は少いのである、之が例として「ブンゼン」(Bunsen)及び「カリアス」(Larius)氏の之に對する研究成績を摘錄せんに。

温度(攝氏)	水中炭酸瓦斯溶解率
○度	一、七四六七
一	一、七二〇七
二	一、六四八一
三	一、五七六七
四	一、五一二六
五	一、四四九七
六	一、三六〇一
七	一、二三三九
八	一、二〇〇九
九	一、一三一一
一〇	一、〇八四七

温度(攝氏)	水中炭酸瓦斯溶解率
一一	一、〇四一六
一二	一、〇〇一八
一三	一、〇六五三
一四	一、〇三〇一
一五	一、〇〇二〇
一六	〇、九七五三
一七	〇、九五一九
一八	〇、九三一九
一九	〇、九一五〇
二〇	〇、九〇一四

右の如く水温の上るに從ひ炭酸瓦斯の溶解量は減少するが故に、汽鑵内に て煮沸さる、水は勿論大部分其中にある瓦斯を放出し、從て炭酸石灰及苦土に堆積され、所謂「スケール」を作るのである、而して之等炭酸鹽による堆積物は無定形の細かきものが多い、次に普通水中に溶解せる物質にして「スケール」を作る一大原因をなすものは炭酸石灰(及び苦土)である、扨て此の硫酸石灰は炭酸石灰の如く、炭酸瓦斯の溶解如何によつて其溶解率を左右すること少きのみならず、チャーチ(Church)氏によれば寧ろ此瓦斯が存在すれど、却て其溶解度を稍減ずるのである、然しながら此の硫酸石灰も亦水の温度如何により溶解量の上に差異を生ずること少くはない左に「ポギアレー」(Poggiale)氏の之に對する研究成績を掲げんに。

温度(攝氏)	硫酸石灰溶解量(グラム)
○度	○、二五一
五	○、二四八
六〇	○、二四〇
七〇	○、二三九
八〇	○、二三一
九〇	○、二一七
一〇〇	

温度(攝氏)	硫酸石灰溶解量(グラム)
五〇	○、二〇五
六〇	○、二〇四
七〇	○、二〇三
八〇	○、二〇二
九〇	○、二〇一
一〇〇	○、二〇四九
一一〇	○、二〇五四 (最高)
一二〇	○、二〇五二
一三五	
一四〇	

右の成績によれば硫酸石灰は三五度迄は温度と共に溶解量を增加し、之より以上は温度と共に減少するのである、即ち五度の時と一〇〇度の時とは其の溶解量略ぼ同一である、而して温度が更らに上りて一四〇度に達すれば、硫酸石灰は $CaSO_4H_2O$ なる結晶となり堆積するに至る、此の如く水温が百度以上に上ぼる程多くの堆積物を生ずるのであるが、汽鑵中の湯温は高壓の下に沸騰せゝるが故に、勿論百度以上である、されば硫酸石灰を多く含有せる水を給水せる場合には、勢ひ此種の硬くして粘着力の强き結晶狀の「スケール」を多く生ずるのである、此の如く二樣の「スケール」を作るゝ一大原因をなすものは炭酸石灰(及び苦土)である、扨て此の硫酸石灰は炭酸石灰の如く、炭酸瓦斯の溶解如何によつて其溶解率を左右すること少きのみならず、チャーチ(Church)氏によれば寧ろ此瓦斯が存在すれど、却て其溶解度を稍減ずるのである、然しながら此の硫酸石灰も亦水の温度如何により溶解量の上に差異を生ずること少くはない左に「ポギアレー」(Poggiale)氏の之に對する研究成績を掲げんに。

温度(攝氏)	硫酸石灰溶解量(グラム)
○度	○、二〇五
五	○、二〇四
六	○、二〇三
七	○、二〇二
八	○、二〇一
九	○、二〇四九
一〇〇	○、二〇五四 (最高)
一一〇	○、二〇五二
一二〇	○、二〇五一
一三五	
一四〇	

右の成績によれば硫酸石灰は三五度迄は温度と共に溶解量を增加し、之より以上は温度と共に減少するのである、即ち五度の時と一〇〇度の時とは其の溶解量略ぼ同一である、而して温度が更らに上りて一四〇度に達すれば、硫酸石灰は $CaSO_4H_2O$ なる結晶となり堆積するに至る、此の如く水温が百度以上に上ぼる程多くの堆積物を生ずるのであるが、汽鑵中の湯温は高壓の下に沸騰せゝるが故に、勿論百度以上である、されば硫酸石灰を多く含有せる水を給水せる場合には、勢ひ此種の硬くして粘着力の强き結晶狀の「スケール」を多く生ずるのである、此の如く二樣の「スケール」

鹽によるるものは、火禁口の近傍に多く集まり、硫酸鹽によるものは之より遠かりて多く集まるのであつて、又汽鑵中の水を急に熱すれば「スケール」は細かき堆積物となることが多いのである、而して此の最後の急熱によりて生じたる堆積物は然らざるものに比し稍危險少きも、此物は屢其厚くなり勝ちなるが故に之が爲めに金屬の膨脹を不平均にし、往々破裂の原因をなすことがある、特に長形の汽鑵に於て此の危險は多い、又斯程までの危險に至らざる場合と雖ども、此の急熱による細かき堆積物は、屢々汽鑵の要部に堆積して操作を妨ぐるのみならず「シリンダー」を油にて摩らざる場合にありては、此の油と石の堆積物とは代合して汽鑵の鐵板の過熱を誘導する有害なる化合物を作るのである、故に汽鑵中に於ける堆積物は如何なるものと雖ども忌むべきである。

元來「スケール」の忌むべき點は熱の傳導遲しきことが其主なるものである、而して此傳導力は「スケール」の組成如何によりて多少の相違はあるが、「ウガー」(Wagner)氏の實驗によれば其平均傳導力は鐵に比して三十六分の一である、此惡性質あるが爲めに水を蒸氣に變ずるに多くの燃料を要するに至るのである、即ち「スケール」の厚さ僅かに六/一〇〇密米の場合ですらも燃料の五〇%/一六〇%損失を生ずるのである此燃料の損失以外に「スケール」の最も忌むべき點は熱に對する其惡傳導體なるが爲めに汽鑵の鐵板を不平均に膨脹せしめ且つ之を過熱するに至る此の二つの事柄のために恐るべき汽鑵の破裂が往々起るのである、即ち不平均の膨脹により鐵板を弱め、又過熱により蒸氣は急に大容積になり、非常なる强

壓を汽鑵に及ぼすが故に、遂に破裂の運命に陷るのである、又「スケール」の害斯程までに至らずとも、周圍に固着する硫酸石灰の結晶堆積物は熱のために屢々離れ蒸氣に運び去られて汽鑵の下底部に堆積することあり、此場合には汽鑵を損傷するのみならず蒸氣の生産を不規則ならしむるの弊害を來たすのである、此の如く「スケール」の出來ることは汽鑵には大禁物である、されば之が給水には出來る限り礦物質殊に石灰並に苦土の少き水を使用することに務めねばならぬ。

（未　完）

「フオルマリン」「アルカリー」法に於ける疑問の一二

逓信省　會員
東京醫業講習所教授　坪井啓作

「フオルマリン」鑑定の方法に就ては、是まで愚師辻學士を始め幾多の學者によりて本誌上に紹介せられたれば、今更茲に蒐ぶるの必要なく、且つ其各種鑑定法中比較的成績正確にして而も操作容易に費用少き良法と認むべきは「アルカリー」法なることも亦明かなり、されば各地方に設立せらるゝ檢定所に於ても概ね此方法を採用するもの多し、然るに此「アルカリー」法中一二疑問を生じたれば、左に其項目を掲げ併せて之れに對する實驗と想像説とを述べ諸學者の高敎を仰がんとす。

其一は「アルカリー」法を行ふに當り「アルカリー」と「フオルマリン」とを混合して其化合を計らんが爲め蒸沸するに際し、或は白色を呈し或は褐色を呈し、常に一定せざることにして、即ち同一の「フオルマリン」に對し同一の「アルカリー」液を以て同一の處理を施し、何故に此の如き二樣のものの生ずるやと云ふにあり、尤も此變色に對しては曩きに揭著の「フオルマリン」鑑定法にも記載したりしが、其際にありては未だ白色と褐色とにより分析の結果に差なきを示したり、然れども其後實驗の結果白色のものと變色のものとは必ず多少の差違を生じ、變色したるものは白色のものに比し、「蟻酸アルデヒード」含有量を減ずるの事實を確めたり。

其二は此混合液を煮沸する溫度と分析成績との關係にして即ち是迄本法の通則として行ふ彼の煮沸液中に一時間半以上置きたるものに比し、之れより稍々溫度低き八九十度の溫度にて處理したるもの即ち「蟻酸アルデヒード」の含有量多き結果を見ること之なり。

而して是等の二ケの疑問に就ては、如何なる理由によりて此の如き變化を來すかを知らんと欲して種々試驗したる結果概略左の如き事實を確めたり。

（一）「フオルマリン」と「アルカリー」と混合したる液を熱するに際し、急激に溫度を上昇するものは漸次昇溫したるものに比し變色すること多し、故に冷水より漸々熱するときは、熱湯中に直らに入れたるものより變色すること少し。

（二）急激に溫湯中に入るゝに其湯の溫度割合低きときは變色せず。

（三）混合液を入るゝ容器の密封充分ならざるときは、必ず變色すること。

（四）「フオルマリン」中に糖類の混ずる場合は必ず變色すること。

（五）七十度八十度九十度等沸騰點以下の各種溫度に於て、一時間半以内熱するときは、百度にて一時間半熱したるものより、分析の結果「蟻酸アルデヒード」の含有量少なしと雖も、若し三時間以上の長時間に亙るときは百度に熱したるものより、却て含有量多き結果を見ること。

右の事實により綜合するに高溫に處理する場合には苛性加里と「フオルマリン」と化合するに。

$$2CH_2O+KOH=CH_3OH+HCO_2K$$

の化學反應を呈するのみならず、尙ほ他の變化を起すものにして、其成績に影響するにあらざるか、予は之れに對し下の如き二個の原因を想像せり即ち一は V. Nenadalitsc 氏の「メチルエチルアセトアルデヒード」と「フオルムアルデヒード」とにより成生したる「アルデヒード」の苛性加里に對する性質に基き左の如き變化を想像せり。

大分縣分部大分市鶴崎商業學校

1. $2CH_3OHCHO+KOH=C_2H_5(OH)_2+CH_3OHCO_2K$
2. $CH_3OHCO_2K=HCO_2K+CH_2O$
3. $CH_3OHCHO+CH_2O+KOH=C_2H_5(OH)_2+HCO_2K$

即ち「フオルマリン」と「アルカリー」と混合し熱する場合に於て、前者の化合は極めて遲緩なるものなれば、未だ化合せざるに先ち一部の「アルデヒード」は「アルキャリー」と熱との爲め縮合作用を起し、茲に「アルドール」を生じ此物苛性加里と化合して、第一の變化を起し「グリコール」と「オキシ酢酸加里」とを生じ、此「オキシ酢酸加里」は更に熱の爲め分解して第二の變化を起し、蟻酸加里と蟻酸「アルデヒード」とを生じ、此「アルドール」及苛性加里は又更に「アルドール」と作用して、第三の變化を起すものあるが爲め、普通の場合に於ける一分子の苛性加里と二分子の蟻酸「アルデヒード」と化合せず「グリコール」成生の爲め割合多量の「アルデヒード」を要するを以て、分析の結果含有量を減少するにはあらざるか。

高溫若しくは密閉充分ならざるが爲め蟻酸「アルデヒード」の一部縮合して「フオルモース」となり、此物蟻酸「ア

ルデヒード」の存在に於て苛性加里に作用せられ變色すると同時に鐵酸「アルデヒード」の含有兎を少なからひるにはあらざるか。

以上二個の疑問と其實驗とを掲げ想像を逞べたれば、是れに對し諸先輩の高敎を得ば幸甚。

軟化病に就て（承前）

第二　喉腫病菌

池田榮太郎

（前宮崎縣農事講習所　現宮崎縣農事校敎諭）

本病菌も亦去る三十七年日向に於て始めて分離せる病菌なり、今少しく其由來を記せんに、宮崎縣農事講習所に於て春蠶飼育中第二組生徒某の擔任せる蠶箔に、而かも五齡三日目に於て二頭相並んで同一病徴を呈せるものあり、即ち二頭ともに第一、二、三環節腹面腫起して頭部を上に擡げ其膨起したる部分は黄色を呈せり、予は此腫起せる部分の血液を取りて之を檢せるに、殆んと純粹なる一種の細菌のみを存せり、更に他一頭を檢せるに又同一細菌のみなり、試みに之を蠶兒に接種せるに、甚しきは數時間にして之を斃死せしむるを見たり、故に予は發見當時の病徴を病名とせ、之を喉腫病と稱して之を實驗したりし、是れ其當時の生徒の詳しく記憶せるところならん。

其後生徒と共に農事講習所所在地なる堀ケ崎村の養蠶家を視察せり、然るに同村養蠶家に大飼育を行ふ南村光藏氏の養蠶を視るに當り、蠶期丁度四眠にして該中點々病蠶を存し、又蠶箔の緣邊に逃ひ出て其儘斃死せるもの多數あり、予は之より病徴異なる知きもの十頭を携へ歸りて分離せしに、何れも同一細菌のみ多く著殖せり、所謂盲逃の喉腫病なりし、始めて怖るべき病菌なるを知り、南村氏に從來の結果を導ねしに其前年に於ても同一病蠶の爲め失敗したりと云ふ、爾八年には消毒を嚴行せし爲めか發病せしを聞かざりし。

此本病菌に依りて生ずる病徴は始め分離したる當時の如く第一二三環節腹面腫起せざるも最初分離せる當時の徴候に據り、本病菌によりて生ずる蠶病を喉腫病と名命し其病原菌と下命し置くべし、

因に本病菌は石渡御及び大森博士に送附して調査及び試驗をこひ託けり但し石渡御は去る三十八年大森博士には昨三十九年なり

一　病　徴

本病菌に罹りたる蠶兒は始め食慾を減じ、不活潑にして頭部を垂れ、脈搏の鼓動頻繁となり、前驅稍黄色半透明となり蠶箔の周緣に這ひ出て、一字形に伸長し、其儘吐瀉して斃死す急激に來るものは殆んと卒倒病と異ることなく、體軀に毫も黄透の觀を呈せずして激しく吐瀉し、其儘斃れ檢漸々紫黑色となりて腐爛するにあり、腐爛せるものは激しき惡臭を放つ、本病は秋夏蠶に少く春蠶に於て時々發見するところなり。

二　病菌の狀態

大なる桿狀菌にして凡そ〇・〇〇四乃至〇・〇〇五ミ、メ幅凡そ〇・〇〇一七ミ、メなり、然れども長さは長短不定なるもの多し而して本菌は卒倒菌其他の大桿狀菌の如く、内生胞子を作る其胞子の大さは長さ〇・〇〇二五幅〇・〇〇一五ミ、メ内外なり。

寒天斜面培養基に於ける喉腫の特徴

喉腫菌（千二百倍）

a　菌體連鎖の狀
b　胞子生成の初期
c　胞子皮熟せるもの
d　菌體消失し胞子のみ殘れる狀

三　病菌の性質

（一）内生胞子をつくる
（二）鞭毛　未調
（三）染色各種の「アニリン」色素にて能く着色す
（四）脱色　グラム氏液に脱色せず
（五）運動　固有（主に蛇行）の運動を爲す
（六）酸の產否　牛乳を凝固せず數日の後澄化す
（七）瓦斯發生　發生せず
（八）「インドール反應」「ブキョン」に培養せるものは之を呈せず
（九）色素產生　特別なる色素を出さず
（十）寒天培養基に於ける發育狀態
（イ）扁平培養基にて灰は開き大なる灰白色の「コロニー」を造る中央凸出厚なり。
（ロ）穿刺培養にては乾燥性鉄狀に發育し好氣性細菌なり。
（ハ）斜面培養に於ては刺線に沿ふて表面平かに高く繁殖し、其面に多量の縱横なる皺を（主に横皺）を生ず、是最も他の大桿狀菌と識別し易き特徴なり。
（十一）馬鈴薯培養基に於ける發育狀態
稍々濕潤なる淡黄色の菌苔を造る、此際高温なれば直ちに全面を變ふ日を經て茶灰濁色に變す。
（十二）肉汁培養　始め溷濁して菌膜を作るも、日を經て清澄し沈澱を生ず。
（十三）膠質培養基に於ける發育狀態
扁平培養基に於ては大なる灰白色の「コロニー」を造る。
膠質培養基に於ける發育狀態の詳細は前發所報の膠質稀薄に同時に次號に掲載すべし。
（十四）蠶體試驗
本菌の蠶體に於ける實驗は分離以來四ヶ年にして、此間殆んど、前後數千回に及べり、蠶體試驗上最も激しく蠶を斃すは皮下接種の場合なり、皮下接種に於ては何れの場合も石渡師分離の卒倒菌より激しく斃死せし發病の狀赤よく卒倒病に

類似し、且又前述の菌の形態よく卒倒菌に類似するを以つて予は近來是を類似卒倒菌と假名し、實驗生論に於て蠶兒張弱の關係に就て病菌抵抗力を比較せんため、卒倒菌と本菌とを用ゐて試驗せる成績の損益たり、讀者中類似卒倒菌と記載せるは本菌を稱せしものなり、而して本菌は皮下及び肛門より接種するときはよく蠶を斃すも、添食に於ては殆んと之を斃さるるなり、然れども十分の一乃至十分の二は添食によりて斃るゝものを出すことあり、故に本菌は蠶兒の胃中に於ては蕃殖する力に乏しきものゝ如し。

左に試驗の結果二三を掲げて之を證すべし。

（一）皮下接種

(1)春蠶三齡四月三十日午後一時接種供蠶二十頭

斃死月日及時刻	頭數	接種後經過時間
五月一日午前六時半	二	十七時間と三十分
五月一日午前九時三十五分	二	二十時間三十五分
五月一日午後一時二十五分	八	二十四時間二十五分
五月二日午前〇時四十分	四	三十一時間四十分
五月二日午前五時	四	三十六時間
五月七日午前四時三十分	二	接種同上 十八時間

(2)五齡蠶試驗八月九日午前十一時接種

八月十日午前五時	二	十八時間
同　午前八時	二	二十一時間
同　午後九時	五	三十四時間
一頭無事		
同日午前九時十分	二	二十二時間四十分
同日午後一時	二	二十時間三十分
同日午後二時	三	二十七時間三十分
一頭無事		
(3)五月九日午後〇時五十分接種同上		
五月十日午前十時十五分	一八	二十一時間二十五分
同日午後一時	二	二十四時間十分

（二）秋蠶肛門接種

(1)八月五日四齡三日目午前九時接種供試蠶二十頭

八月五日午後十二時	二	十五時間
八月六日午前七時半	二	二十二時間三十分
同　午前九時	二	二十四時間
同七日午前七時	二〇	四十六時間
同　午後二時半	二	五十三時間半

神奈川縣高座郡相模原村若尾製絲場の外の景

是に據りて觀れば皮下即ち血液に直接侵入する場合は最も激しく蠶兒を斃し肛門より侵入する場合は多少長時間を要し

且つ感染せざるものもあり。

添食即ち桑葉と共に胃中に侵入せるものは前述の如く二例以上の斃死を出せしことなし然らは虚弱にして病毒に感染し易き蠶兒に添食せしめたる場合は如何なるものやを試みんと欲し四齡起蠶虚弱蠶二十頭を撰擇して十頭に多量の石病菌を添食せしめ他の十頭を標準として飼育せしに標準蠶は結繭を了三頭斃死して七頭結繭し病毒添食區は左の如き成績を顯せり。

八月五日午前九時採桑

八月七日午前六時	三頭	四十三時間目
八月八日午前六時	一	六十四時間目
八月九日午前七時	一	八十九時間目
八月九日午後四時	一	九十八時間目
同十日午前五時	二	百十一時間目

三頭無事ニ斃死蠶の體中に三倍顆微鏡視せり

是に據りて見るときは、添食によりて容易に斃死せざる病菌にても、蠶に虚弱なるときは確かに病勢を進めて斃死を早からしめ、亦此等病菌侵入なきときは、結繭するものも斃死するに至るものなるを知るに足る。

絶對的或は殆んど添食によりて斃死せざるもの例へば本菌又は大森博士の吐瀉菌の如きものにして、皮下接種によく蠶を斃すものは病原菌なりと、予は前號冒頭に於て之を論及せんとし、其事實的證明は次號に於て之を論及せん。

（此に本病菌の形態について（メガテリューム）に類似せりと、然れども培養上の性質能に異り、又蠶兒發病の徴候を異にす、予の實驗によれば（メガテリューム）は皮下接種に於て、蠶兒を發病せしむるも發病後は、如之病蠶は本病菌の寄り合受けたるもの如く吐瀉することなし、實に病者の區別判然たるものなり。）

秋蠶種の輸送方法に就て

特別會員　舘　三之吉

本年の絲價は昨今多少下落の傾向を示したりしも、春蠶以來漸次昇騰し未曾有の盛況を呈したるは、鋤り我蠶業界の幸福而已ならず、國家の經濟上誠に慶賀すべきことにして從て各地到る處蠶業熱は大に昂進し、亦當試驗ありても大年度豫算中斯業奬勵に關する經費は必ず多少の膨張を見るに至るべしは余の信じて疑はざる所なりしも、其施設は各地事情の異るに從ひ同一ならざるべし、然と雖も秋蠶奬勵の如きは緊急事業として、熟れも豫算中に加へられ、此項目中には秋蠶用桑園の特設及秋蠶種の廣場の風穴の改良の項目は是亦存するならんと推察せり、此項目は秋蠶奬勵上誠に適切なる事にして一人の異議者もあらざるべしと雖も、余は尚此外焦眉の急と認むべきもの一あり、他なし、秋蠶種運搬方

法の改良は是なり、今試みに其一例を擧て當業試驗員の注意を促し、併て當局者の一考を煩はさんと欲す。

從來長野地方に於ては蠶種（生種）風穴種（一名冷蔵種）の二種あり、風穴種は一部郵便に托送せらるゝものもあるも、多くは仲買人各自携帶し、途中の運搬は日中の炎熱を避くるの目的を以て主として夜間の運送を爲し、嘗て製糸行者は外部に氣孔を穿ち内部に相當する餘地を與へ、途中生理を害せざるやう注意を加へたるものの多きを認むれども新場として近來風穴の發見せられ、入穴中の注意を用ゐて忘るゝ地方にあり、而も輪送の方法等は春蠶種を秋蠶期に運送すると同一にして一層其生理を傷ふ虞なきを認めしめんとし、秋蠶種は發生を遲緩ならしめ、其運送の時は炎暑中にも拘らざるも出穴後保護に至りては缺くべからざるものあり、而も輪送の方法等は春蠶種を秋蠶期に運送すると同一にして一層其生理を傷ふ虞なきを認めしめんとし、入穴中のきは發生を遲緩ならしめ、其運送の時は炎暑中にも拘らざるも出穴後保護に至りては缺くべからざるものあり、而も輪送の方法等は春蠶種を秋蠶期に運送するものあるも、僅かに一部郵便に托送せらるゝものあり

種は一部郵便に托送せらるゝものあり

種は一部郵便に托送せらるゝものあり

種は

らんのです、萬那斯ふ云ふ類であるから、土地は如何に肥沃であつても今日まで農耕に改良し出來ねば、みのなることになつて居つたのであります、況して桑蠶飼育などに注目して十二分の利益を期待する者はなかつたのであります、彼の北韓の方面へ行くと、殆ど際涯のない、何十里と云ふ程の原野が有つて、其原野は丸で柳や櫟の類で滿されて居るさうであるけれども、土人は之れを薪木などにして燒に利用する道なんどは考へて居らぬが、若しも之等の柳や櫟を利用して桑蠶飼育をすることにしたならば優に一千萬圓以上の收入があるでせう、去れば之れは朝鮮の養蠶に適に良き印源なるに相違ないのであります。

乍併未開の朝鮮人に道れと云つても容易に進る氣遣もなく假令進つた處が滿足の事の遣れやう筈はないから是非日本人の手に待たなければならぬと思ひます、千家氏なども、澤山地面を買ひ込んで置かれたさうですが、私なども一つ地面を買つて桑蠶飼育を造つてみたいなと思へて居る位であります……左土地にも依るが一反歩大抵四五圓位で買ひます、五十圓もあれば一町歩買ひるのですから、寔に安いものです、支那では一町歩の土地から一萬粒の繭を取ることが出來ると云ふ云つて居りますけれども日本人が道れば三萬粒の繭は取れませう、一町歩で三千坪、一坪に一本づゝの樹を植ゑて三千本、一本の樹に十頭づゝ飼育するとすれば三萬頭であるが、一本に二十頭や三十頭は必ず飼ひるから、三萬粒位の繭は大夫丈取れる、而して彼地では一粒一厘位のものであるけれども、信州邊では一粒一錢位であるから、假りに一錢として、三萬粒で三百圓、ナカ〳〵味い利益ではありませぬか。

め樹に村(キドンコ)鮮人ロドリ國傳
統の桑剪發老(シンコウ)

桑蠶に對する微粒子ですか、水原の勸業模範場に居る宮原君も、所々な事を云つて居つた併し私はマダ桑蠶に微粒子の寄生して居ると云ふことを慥めて居らないから、何ともいひ難いけれども、先日一四燒れ居たのを調べて見た、三角形の形結晶體の如きものがあつたが、或は之れは蠶に於ける多角形結晶のやうなものであつて、或は之れは微粒子が居るとも居らぬとも云はれぬが、假りに居るとした處が、相當豫防の方法の講ぜられぬこともあるまいから、敢て心配することはなからう。

之れを要するに朝鮮に於ける桑蠶事業は、非常に有望の事であるけれども、韓人の手に委して居ては、到底、此大なる利益を拾收することが出來ない、であるから、韓國保護の大任を有せる我邦人は進んで韓國の內地に踏み入り、桑蠶飼育の術に當り、之れが利源の開發を試みられたいのであります。

予は如何に一道三縣を視察したるか

學士 農學士 石渡繁胤氏談

官命を帶び北海道殖民實務者の一道三縣を視察せられたる石渡學士は其歸途暫く滯京せられたから編者は一夕學士を日本橋區蛎殼町邸に訪ひ左の談話を採錄した為めて讀者の滿腹を充ふとしやう

時宜に適した奬勵

私の今回巡回した處は岩手、秋田、青森及北海道の一道三縣であります、何か旅行談をと問はれましても、之れぞと云つて御話するほどのこともございませぬが、併し折角の御求めですから、一二見聞したことを御話することに致しませう。

各府縣とも蠶業の奬勵は普通の通りで居るが、岩手縣なども隨分熱心に遣つて居るやうです、御承知の如く飯地方では蠶兒を飼育するに、野桑を一番多く使ふ處ですが、養蠶の發達に伴ひて段々野桑が無くなる計りであるから、何とか之れを保存する方法を講ぜなければ、養蠶を甘く經營することが困難ないやうになると云つて居りました、之れは獨り岩手縣計りでやない、東北地方は一體に其通りであります、川岩手縣知事の かきは、昨三十九年六月二十二日に告辭第二百五十三號を以て、桑園開拓奬勵金下付規程を發し桑園の增殖に勉めて居られますが、之れは寔に時宜に適切なる奬勵であると思ひます。

桑園の增殖と植栽標準

其奬勵費ですか……夫れは國作地敎濟の金をツックリ之れに宛てしありますが、其指令金額は七萬三百八十三圓四十五錢で、今日迄の出願人は二萬四千百十四人、其內成功者は一萬四千百七十六人であつて、其反別が約二千八百十町三反二畝二十一歩になつて居りました、而して右指令金額中既に交付濟みとなりたるもの、若くは將に交付すべき金額は六萬六千百六十三圓六十七錢に達して居りましたが、同縣は之れと同時に桑園開拓者に對し植栽標準なるものを示して置きましたが之れは一寸參考にならうと考へますから、御覽下さい。

植栽標準

一、栽植法は遠疎稠刈仕立及高木仕立の種種とす
二、一反歩栽植の標準は左の如し
一、遠疎栽は二千百本乃至三千本
二、高木仕立用苗木は七十五本乃至百本
三、栽植者は左の各項を遵守すべし
一、野桑又は病桑又は根付苗しき苗木を栽植すべからず
二、高木仕立苗木は根廻り一寸以上たるべし

三、雑草苗木は根刈り二分以上たるべし
四、栽植前必ず鳥料なほすべし
五、苗圃に植付る為に栽植すべからず
六、苗圃に植付すべき種類は桑とす
七、一反歩の用肥は一升五合乃至二升とす
八、種子は蚕芽方変なるもの用ゆべし
四、苗圃及植付上に於きては鼠又は蝗害予防の措置に怠ふべし

長期の桑園共進會

斯う云ふ標準を示してドシ〳〵奬勵せらるゝ結果は澤山の新桑園が出來るから假令野桑は逐次減じても、優に之れを補ひ得て餘りあることてあります、が、年併補助政策を以て飼か桑園を澤山拵へても、さて拵へた後の手入が充分行はれるかドーか、何程多く拵へても其後の維持が甘く行き届かねば密しく荒廃に歸せしひるより外ないのてありますから、其維持法を講究せねばならぬと云ふことてありました、が常局者は五年とか十年とか、長い間の桑園共進會を設くる見込みてあると云つて居りました、之れも面白い方法であると考へます。

大農組織と模範的養蠶

樹間に見るリンゴ園（ポンセロ郡）及樹桑の目年三後付植に於ける

せ以。

三戸町の胴取絲

青森は岩手に續いた部分は養蠶が盛んてあるけれども其他

夫れから私は小岩井に在る岩崎家の農場へ行つて見ました、農場内は畜牛部、畜馬部、育羊部、育豚部、耕耘部、機械部の五部に分れてありまして、此部は蔬菜部、道路部、馬車部、連絡部がついて居ります、除草部、耕耘部等は凡て器械で道路の大農組織で場内に居ります、亞米利加流の大農場は常農夫は百五十人程居ります、臨時に雇入る人夫が二百人乃至二百五十人だそうあります、除草部は凡て器械で

最も良く適して居るけれども其割合に發達して居ませぬ、又夏秋蠶も土地に適して居るやうに思ひますが之れも割合に發達して居らない……蠶種製造業の如き有望なる事業が何故に餘り發達せぬかと云へば開墾事業の爲に力を盡して居るのと、蠶種製造に經驗を有する者が少いからであるせう、個々蠶種製造に經驗を有する者があつても、現に福島縣から行つて居る室氏の如き、隨分製種業に出來ない、現に福島縣から行つて居る室氏の如き、隨分製種業に經驗のある人であるけれども、五ヶ年間に開墾して仕舞はねば無效になると云ふので今は全力を�finに其方へ傾注して居る有樣であります、左れば或程度まで開墾事業が進まなければ蠶種製造業の發達は望むことは出來ますまいと思ひます。

生絲の賣行と予の希望

日刊會長
生絲業家　新井領一郎氏談

擊く經綸中なる新領一郎氏が去月二十一日出發致來せられるに當り、氏の送別の會餐を共にせんとて去月十八日在京中の本會理事評議員は氏を華族會館に招ぎて盛に氏の送別を惜まれたるが、其談片をかい摘まんで此に掲ぐることゝなれり、今や氏は遠く千里の外にあり、蛟々蹈るの途にて倫敦が耳底に殘れる餘音を掬ひしと御承知あれ。

米國に於ける生絲の賣行

今年の生絲が比較的米國に賣れ行きが宜くないのに就て

照絲製氣孔の檢査時村松工學士

物を用ゆる樣になつて居ります、此流行に依りて生絲の賣行上多少の浮沈のあるのは蓋し將來とも免れ難い所でありませう。

歐洲に於ける生絲の賣行

今年羅巴に生絲の能く賣れるのは、東洋の平和に次て各國の協約となり、資本家の警戒解け一般の人心太平を謳ふといふ樣なことも素より一の原因であらうが、直接に感ずるのは絹物流行の度を進めたのが第一であります、此外には景氣を盛ならしめた特別の原因は無いと思はれます。

彼の歐洲向の拵製絲の價が良く賣れるのは此景氣に連れるのと、座繰絲の之に比して割合に廉いのは米國が歐洲の夫れの如く景氣付かぬ爲で、例の三社外商の關係よりして廉いといふ人もあるそうですがソンナ事實は更にないのです。

米國に於ける信州絲の評判如何

信州絲の評判ですか、一昨年の米國での不評判は非常でしたが、之は其年蠶の遲作よりして繭も惡るければ從て絲も悪い、それに絲價も敢て安い相價はぬといふ關係からして自然粗製にもなつたでありませう。併し昨年の繭の出來が良かつた爲めに生絲も著しく良くて大に評判を復しました、今年は繭が上作でおそれて大分善い方に先約が出來たからべケになつてはならぬと、此方面の絲家は餘程注意をして換くのて御意なつたのです。

此繭の豐凶は生絲の良否に大關係あるは無論ですが、信州地方も三四年前と大違ひで、重なる人々の製絲家も一般の製絲家も著しく進歩して實を現はしました、之は本年生絲の前途の爲に又製絲家自身の利益の爲に御に賀すべきことであります。

信州絲は如何に改良すべきか

信州絲の今後何改良すべき點ですか、ソレは「デニール」を均一ならしむるとか、二本揚を防ぐとか、繭の上に於て注意は一層の必要があります、之を關西の飛切ものゝ樣な上絲に遜ぬ樣なる上絲に遜ぬればならぬといふことは、現今に於ては其要を認めませぬ、彼地でもソレ〳〵便利向があるのですから必ずしも上ものでなくとも正直にやつて行けば宜しいと思ひます、併しながら近來夏秋蠶の粗惡な絲が

は、米國の農作が不作の爲めだと云ふ說もありますが、併し蠶物の收穫は前の報告通り樣に、ひどく惡くはなく先づ相應の作であつたと云ふ譯でありましたが、始めの分は すい、又二度の株式界に恐慌がありましたが、始めの分は一局部のことで米國全體の景氣には何等の關係を來さなかつたけれど二度目の恐慌は多少一般に影響を及ぼした樣です、又五六月頃の氣候が何分著しく冷氣であつたの爲め、春蚕として繰出した品が頗と自然其後の生絲として繰出した品が頗と賣れず、春蚕の生絲の賣價を減じたのが蠶なる原因を爲したのであらうと思ひます、今後九、十の二箇月の模樣がドウであらうか、此二箇月の景氣の如何は賣行と絲價に大なる影響を及ぼすは論を待たぬことで、これで本年の一段落となるのであります。

併しながら大體から云へば生絲需用の途は追々擴張せられて、衣服よりも「ボン」それから室内の裝飾品或は重綾を織く絲など種々繼多の點に用ゐられて居りますが、殊に毛織の服地に絹を交織することが餘程行きして參りました。

此流行と云ふものは不思議なもので、一昨年頃の如きは非常に綿織麻織の流行して、一時上流社會の貴婦人などは絹物を衣服に用ゆる者が無くなつて、(我も人も麻又は綿を用ゐたことがありましたが、チョッと我々が考へると如何なる場合で絹物は麻綿の織物に勝ると思ふが、アチラの婦人方云へば妙なもので、人が意氣だとか何とか云へば其實質の如何を問はず、何でもかでも着たがるといふ風があるから笑止しい、此の如き流行は長くは續きませぬ、一年位か乃至一年餘りて又代るのです、ソーして今では右の上流社會も皆競ふて絹

のに資場は廉くなるから思ひ寄らぬ損害を受くることが解演の問題と関係して賞たいのです、此輕忽なる編製絲を織ることにしたいのです、若し本乾燥絲を爲した上で、近來信州上諏一帯の器械には中々立派な品もありますから決して悪く上南坐繰に劣るとは云へませんが、彼の方は先づ資即ち撚糸の資が大分良くなる傾向を生じ、今年度は資即ち撚糸の資が大分良くなる傾向を生じ、今年度は資即ち撚糸の資が大分良くなる傾向を生じ、今年度は

割烹

大日本衛生會長
大日本禮節學會長　石井泰次郎

○いなまんぢう蒸しの拵へ方

いなの鱗を去て背の方より開き、腸を骨とを取り去り、水にて洗ひ、薄鹽をあて、暫時放置して後再びさつと洗ひて腸の所へ煉り味噌をつめ、二つに合せ之れを蒸籠に入れてむし、あたゝかきうちに器にもりて出すべし。

煉りみそのこしらへ方に、味噌かうらごしにして鍋に入れ、砂糖、みりん、水等を加へ、弱火にかけ、杓子にてかたきかげんに煮て之れをれり冷やして魚に詰むるべし。

吸物　吉野うちきす

いかり防風

鯨のうろこ、頭、腸等を去りて三枚におろし、腸をかき去り、皮をひき取り、六七分の角になる位の大きさに切り、魚塵などを、はたき落し、鹽水に暫く浸しおきて、よくあらひ湯鍋に入れてざつと湯煮し、湯をしぼりて、堅魚煎汁、醤油等を加へて煮てうすく味をつけ、皿にとりおくなり。

次に豆腐を布巾に包みてかたく水氣をしぼり、擂盆に入れてよく擂り、玉子を一個づゝくだき入れ、豆腐とすりまぜて醤油、みりん酒煮切りを加へて、よくまぜ前に煮たる初茸をいれ、等にてかき合せ、ブリキ製の四角の箱（其他の器にても よし）の中に入れ、上面を平らにならし、蒸籠に入れてむすべし。玉子かたまりなば、おろしてとり出し、適宜に切りて、皿にもり、大根おろしをそへ、堅魚煎汁と醤油と合せて煮かへしたる、うすきかけ汁をかけて出すべし。

○秋刀魚の信濃むしとしらへ方

さんまは、よく洗ひて、頭と尾とを去り、腸を出し、二寸五分或は三寸位づゝの長さに切り、大根を一寸五分位の輪切りになし、それを五厚角位の線に切り、水にて洗ひ、次に少し深みある皿へ、まづ大根をたひらに入れ、其上へ、さんまをならべ入れ、上より酒を、ひたゝ〳〵になるほどかけて、蒸籠に入れ、大根の柔かになるまでむし、皿に盛るとき大根も共に盛り合すべき。（未完）

肥料の部　南洋諸島佛領

大きくして肉厚き時は、二枚或は三枚にへぐべし。

葛粉をかたくりのなきやうよくつぶし、目のこまかき篩にてふるひ、刷りのつぶし方は、藥研にてつぶすがよろしけれど、少き時は、茶碗の横の所にてもよし、前の切肉を葛の粉にしたるをよくつけて板の上にて、擂子木を以て、とん〳〵とうち、粉をつけてはうちて薄くのばし、熱湯の中に入れてざつと湯煮し、常に上げて、湯を切りおくべし。

吸物の汁

堅魚煎汁四合、醤油二勺五撮、味りん一勺、鹽二匁位の割合にて、椀の汁の時の如くに仕立つるなり。

○初茸玉子よせのこしらへ方

（原料）初茸四十個、鶏卵十五個、豆腐小一つ、堅魚煎汁醤油、味淋酒、初茸は、細巾を以て、笠をたゝき、笠のうらにある、蟲

皆川洪園

財は何の苦にか来むる世計の第一表食な足らしめんが爲なりさあらば 難な秋き草か忘れて食り貯ふるにも及ぶまじきことにこそ

桑樹害蟲驅除法

學士會員
蠶業講習所技師　農學士　明石　弘

緒言

桑樹の害蟲類によりて被る損害は年一年と増進して行く、即ち桑樹害蟲は益々其種類と數とに於て著しく増加するの傾向を呈して居る、桑園面積の擴大したること、林地原野の開墾種々ある、即ち桑園面積の擴大したること、林地原野の開拓せられたること、鳥類の減少したと交通の便利が良くなつたこと等は曾て起因を為すものであるけれども、桑樹の栽培法が漸次進歩改良せられて、葉質の豐厚となり、害蟲の嗜好に適し、且枝條はよく繁茂して其潜伏に便なるに至らしめたるが、主なる原因であろうと思はれる、而して桑園に發する害蟲の種類は地方により、又栽培の方法等によりて異なるか、兎に角害蟲が多くなつて桑樹の其加害を蒙る程度が激甚

博士ルメンテー 蠶業試驗場長

桑樹害蟲に於て近來遙に多く其種類を殖し、害蟲の數亦多く、其種類を殖し、害蟲の數亦多く、其種類を殖し、害蟲の數亦多く、

處では、四拾度内外の貯藏場より取り出し直に八拾度以上の高溫に接觸せしむるのは得策ではない。されば更に順進法に依りて出穴する甲說の如く四五日を養して、殊に順進法に依りて出穴するのは不得策であると思ふ。常に出穴手續の煩雜なる手續は、乙說の如く蠶の性質及び繭質に好適なる溫度順進法に依りて出穴しかられぬ頃は、天氣が甚だ不良なる三十八年の夏季より初秋に加へて氣溫が甚だ低くあつた。是が爲め東北地方などは米作は大不結果であつた事は、今尚ほ世人の記憶に新なる事柄である。同地方の風穴蠶種は、特に溫度順進法に依らずとも、例年に比して長きを要したのであります、而して不順氣候の降雨勝で經過したから、其結果も素より上作でなかつたであらうが、蠶種製造業は大に困難したのであります。

（ロ）繭で催青して孵化する迄の日數は、平均十日乃至十一日を要するが、蠶種製造業者は、所謂再出芽する蠶種の、蓋蠶種の催青中自然の低溫度に任せて置かから、恰も冬眠の蟲を出穴するが如く、其原因は、恐らく風穴内の溫度の高きに依り、其原因は、恐らく風穴内の溫度の高きに依り、其原因は、恐らく風穴内の溫度の高きに依り

本項の終りに於て一言して置くのは、風穴蠶種が被害されれば直に罪を風穴に嫁するが、是は誤りであり、入穴以前の扱ひ方の當否は、密接の關係を有して居る、故に蠶種家は、單に風穴のみを咎めず、自分の手許に置く間に於て、手落のない様充分に注意して貰ひたい。（未完）

松井の中毒

小藤理學士の調

松井の中毒に就ては昨年に引きつゞき、其中毒は果して如何なるものなるかの研究に取掛りたるも未だ何ぶも、見る甚の事柔に、今年目迄に研究の結果發見されし者は、僅にムシカリヤと稱する一種ある のみなり、時期に其の食用期に入りたる拔掏、食用等と有毒等との區別に付て説明する必要あり、未だ學士之れを説明し難きも、米國の毒理學博士の説に依る事、及び日本古來の傳説は夫に參酌するの必要あり、而も僅に手が觸れて腐る物、虫の蝕穴などある物、蟻に探べき物にも多の汁の出づる者は決して食すべからず、此れに反して赤色の汁の出づるものは多く食用となるべし、又煮袋さて顔面を洗貫又は眼鏡の物品を當てたる際、其處に發りを生ずるが如き者は決して食用すべからず。（一回目）

先づ英學を修む

貿易界の明星　新井領一郎君

絹界の三元勳たる一人として、星野長太郎君の傳を掲げて該君に見ゆること幾後數回、只て見さと君が明治と奮鬪の生涯を叙述たる以て諸賢の記憶に強新なるべし、而して今又君が今勃たる領一郎新井氏の業務を掲げて該君に敬意せんとす、蓋し蠶種家の狀況を一層明にして以て我が蠶絲業界の潤滑を謀ふに資からしめんとする編者の微意に過ぎざるなり。

君は上毛の人、野州佐野藩平民の五男にして安政二年七月を以て生る、一米人より忽ち天平の命乎を受く、時に四百英斤の特勢多郡水沼村に生れ始め良助と稱し、後出て同郡田澤村なる新井氏の嗣となり名を領一郎と改む。新井氏は代々製絲及び販賣を以つて其の業とし、累年の之れを山田郡桐生町の機織家に給して聲名あり。君は幼年より父系作氏に隨ひて世業に力めしが、當時横濱に於ける生絲販賣、多年の經驗拔くべからずして退潮の氣運を察し、倦怠先づ之れを救濟せんと欲し、父祖の業を故むるの罪を敢て忍んで自ら之れが改善に意を注ぎ、家兄星野長太郎氏と協力共に心を、大に必要の急を落りて之れが研究に志しと雖も、來年問題の有志者相集りて小泉某氏を聘して夜々秋窓に之れが研鑽をなすと聞き、乃ち往いて之れ指揮を小泉氏の勢州山田町に轉学しつゝ、後小泉氏の勢州山田町に轉学しつゝ、蠶業の改良に從ふ、日も之れ足らざるとして、漸く焦眉の急を告げしより愈々措くべからざるを感じて遂に英學を捨め、密かに襲敵の目を盾て、浅草なる化成社に入りて更に英學を修め、法講習所に入り、始めて所期の目的に當つて家兄星野長太郎氏の器械製絲を繁みて日本生絲の消費地たる海外に機業の況を知らず爲めに改良の舉、亦其の效を收むるに由なく經營慘憺云ふに堪へざるものあり。

快心の壯圖米に赴く

是れより先き千葉縣の人佐藤百太郎氏米に在ること多年新に日米間の直輸入を企て、欧國に歸り、目ら渡て復た米國に赴くに至れり、明治九年三月十日を得て自ら佐藤氏に從ひて米谷縣、今男爵取締役の命を受け、欧國期の至れるを思ひ、直ちに議を決し、同年十月十日を以て自ら家の製絲三英斤を携へて、汽船一オセヤニック號に搭乘し、潮海に包んで携へ來れる生絲の緒を索めしも、機未だ到らざるか、烟に陸し、陸に上りて生絲繰出の三英斤を示して、是れより先き千葉縣の人佐藤百太郎氏米に在ること多年新に日米間の直輸入を企て、欧國に歸り、目ら渡て復た米國に赴くに至れり、明治九年三月十日を得て自ら佐藤氏に從ひて米谷縣、今男爵取締役の命を受け、欧國期の至れるを思ひ、直ちに議を決し、同年十月十日を以て自ら家の製絲三英斤を携へて、汽船一オセヤニック號に搭乘し、潮海に包んで携へ來れる生絲の緒を索めしも、機未だ到らざるか

れが改善に意を注ぎ、家兄星野長太郎氏と協力共に心を、大に必要の急を落りて之れが研究に志しと雖も、來年問題の有志者相集りて小泉某氏を聘して夜々秋窓に之れが研鑽をなすと聞き、乃ち往いて之れ指揮を小泉氏の勢州山田町に轉学しつゝ、後小泉氏の勢州山田町に轉学しつゝ、蠶業の改良に從ふ、日も之れ足らざるとして、漸く焦眉の急を告げしより愈々措くべからざるを感じて遂に英學を捨め、密かに襲敵の目を盾て、浅草なる化成社に入りて更に英學を修め、法講習所に入り、始めて所期の目的に當つて家兄星野長太郎氏の器械製絲を繁みて日本生絲の消費地たる海外に機業の況を知らず爲めに改良の舉、亦其の效を收むるに由なく經營慘憺云ふに堪へざるものあり。

快心の壯圖米に赴く

是れより先き千葉縣の人佐藤百太郎氏米に在ること多年新に日米間の直輸入を企て、欧國に歸り、目ら渡て復た米國に赴くに至れり、明治九年三月十日を得て自ら佐藤氏に從ひて米谷縣、今男爵取締役の命を受け、欧國期の至れるを思ひ、直ちに議を決し、同年十月十日を以て自ら家の製絲三英斤を携へて、汽船一オセヤニック號に搭乘し、潮海に包んで携へ來れる生絲の緒を索めしも、機未だ到らざるか

に去らんとすと聞き、欧國に歸り、目ら渡て復た米國に赴くに至れり、明治九年三月十日を得て自ら佐藤氏に從ひて米谷縣、今男爵取締役の命を受け、欧國期の至れるを思ひ、直ちに議を決し、同年十月十日を以て自ら家の製絲三英斤を携へて、汽船一オセヤニック號に搭乘し、潮海に包んで携へ來れる生絲の緒を索めしも、機未だ到らざるか

至る處絶望の境に遭はざるはなく、長歎遂に絶望の止むを得ざるを呼ばしむるに至るもしかず、天乎、命乎、一米人より忽ち天平の特勢多郡水沼村に生れ始め良助と稱し、後出て同郡田澤村なる新井氏の嗣となり名を領一郎と改む。新井氏は代々製絲及び販賣を以つて其の業とし、累年の之れを山田郡桐生町の機織家に給して聲名あり。君は幼年より父系作氏に隨ひて世業に力めしが、當時横濱に於ける生絲販賣、多年の經驗拔くべからずして退潮の氣運を察し、倦怠先づ之れを救濟せんと欲し、父祖の業を故むるの罪を敢て忍んで自ら之れが改善に意を注ぎ、家兄星野長太郎氏と協力共に心を、大に必要の急を落りて之れが研究に志しと雖も、來年問題の有志者相集りて小泉某氏を聘して夜々秋窓に之れが研鑽をなすと聞き、乃ち往いて之れ指揮を小泉氏の勢州山田町に轉学しつゝ、後小泉氏の勢州山田町に轉学しつゝ、蠶業の改良に從ふ、日も之れ足らざるとして、漸く焦眉の急を告げしより愈々措くべからざるを感じて遂に英學を捨め、密かに襲敵の目を盾て、浅草なる化成社に入りて更に英學を修め、法講習所に入り、始めて所期の目的に當つて家兄星野長太郎氏の器械製絲を繁みて日本生絲の消費地たる海外に機業の況を知らず爲めに改良の舉、亦其の效を收むるに由なく經營慘憺云ふに堪へざるものあり。

膽を賣りて信用を買ふ

然れ共一波去つて一潮の來るは、之れ止むべからざる世潮の慣ひなり、資金の運用未だ充分ならず、僅に四百英斤の製絲は、只辛うじて全部の工程を終へ、すでに鉛を帶び工程を終へ、すでに鉛を帶び工程を終へ、すでに鉛を帶び

前号約束せし如く、九月全く其の荷物渡しを了せり。

南部座繰の淵源

是れあるも先づ日本内地に於ける當業者の道徳全く地に墜ち、粗造濫造に走り、誠信百端端倪を測らざるなく、爲めに品位は全く失墜を加へ、生糸の信用は殆ど世界の日本生糸は商人の信用を一掃し盡くされたる當業者より見て本邦製糸の概あるに至れり從つて其の製糸業者の道徳は大に改良せざるべからざるなり。

傳習所の某製糸家の蠶室の狀

而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき製糸業の改良を思ひ、遂に氏の発明に係る新生糸の出現を見るに至りしは、実に此の時なり、而して氏の発明に係る新生糸は、其の性質の優秀なる、其の用途の多少、口留力絲の如き他に卒先して彼地に於ける機業家の定度より宜なる織、我れの改良絲、器械絲が不完全なるにも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

氏の発明に係る新生糸は、其の性質の優秀なる、其の用途の多少、口留力絲の如き他に卒先して彼地に於ける機業家の定度より宜なる織、我れの改良絲、器械絲が不完全なるにも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

同仲會社の柱石

然れども當時日米間の通商未だ開けずして荷爲替の便さへなく、銀行の設立を見るに至りしは僅に數年の後に屬す、其の困難や蓋し言ふに堪へざるものありしならむ、而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

なる、其の困難や蓋し言ふに堪へざるものありしならむ、而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

なる、其の困難や蓋し言ふに堪へざるものありしならむ、而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

なる、其の困難や蓋し言ふに堪へざるものありしならむ、而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

なる、其の困難や蓋し言ふに堪へざるものありしならむ、而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

なる、其の困難や蓋し言ふに堪へざるものありしならむ、而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

なる、其の困難や蓋し言ふに堪へざるものありしならむ、而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

なる、其の困難や蓋し言ふに堪へざるものありしならむ、而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

なる、其の困難や蓋し言ふに堪へざるものありしならむ、而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

なる、其の困難や蓋し言ふに堪へざるものありしならむ、而して氏の依れる改良の要点は、其の不利言ふに堪へざるものあり、氏乃ち之れが挽回の方法を講じ、一意専心、如何にして旧来の宜しきを得巧妙を盡くして旧来の不完全なるも拘らず好適の良品として著くべき雷用を有し、事や又必ずしも僧の廃なる爲のみには非ず現に行はるゝ南部座繰なるものは、實に此の時に淵源したるものなり。

峯村君の遠逝を悼む

農學士　石渡繁胤

峯村喜蔵君は有爲の人なり、夙に蠶業試驗場小笠原場に、蠶業の爲に盡す幾年、其後清國に轉ぜられて

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

廣東に、佛國に、黒鳥に、代理店を設けて廣く販路の大勢を察し、今や海外に需用高の約五割を我國に於いて占むるに至らしめたるは実に異數のことゝ謂ふべく、君ならずして又誰か能くけんや、明治三十九年の如きは生糸合資會社の名を冠して實に二萬二千七百七十三洋俵を販賣し、在濱外國商館を驚倒するの盛況に至り、来にありては紐育、紐倫敦、巴黎の大都市に代理店を設け、販路の一人に遷擢せられ彼我の間に締役（Board of Governing）の一人に遷擢せられ彼我の間に

永く寂地にあり、又傳伝に信憑すること三年師乗荒月ならずして其計を傳ふ、余や寡校に場へざるものなり。余の君と相識りしは實に明治三十年の夏新潟、山形二縣に出張して米沢に在りし時にして、君當時附設鳥羽蠶業校に長たりき、君曾て清國武昌蠶桑學堂の聘に應じて渡航するや、余乃ち寄氣の順序、毒を渡語し、君が蠶業所の客員に立たしめ一堂を祝影したり、之れ即ち第一回にして、次で君の自ら「レンズ」の選取したるの第二、第三となり、ふたゝび寄贈物の大略なり終せらる、而して其の第二は當時氏が考案によりて造一回に建設せられたる蠶室にして、第三は清國所が第一回に建設したる飼蚕場なり、何れも清國所の一部歴史的語るものにして、皆昨とすること足るも、余の此風を感得するや、其が識等思慕として顧れ恒慕尽に信傳として、一歴今昔の感に堪へざるものあり、三年六年余の官命を聞びて歓来を銘同するや、君との厚信常に絶えず後者海外蠶學生として伊傳に信學せらるゝと決定するや、書を飛して傳語の研究に餘念無しと報せらる。余直に返書を認め君に勤めて日く「一日も早く渡航せよ、語學は其國に入りて研究するが時とす」日離るれば一日の損あり」とれ蓋し當時余が語學に於て痛切に感じたる所なればなり。終る君の返信は以て君が余の言を入れて出發の期を早かもしめたるか知しめたり、余の馬蹄に下りたのとき紙鳶會社船の港内にあるを見て君の船内にありやを尋ねしも然れども杳として伊國語の途に上れるも或は君既に埋骨にずの余に紙を面も余が

第二圖

第三圖

倫敦なる客遂に黒岩君の報せずりき越えて十一月四日遂に余に倫敦を發して呼び然海中の客となり、途中海に入りて馬鹿の海洋が過ぎぬ、又思ふ或に此洋内行路に行路びしにはあらずやさもけせずは船相つきて早板上に相望むの期待得んと高一為のみ望みたりき、十二月二日余の船に朝に先つ二日ロンが港に入れり、樽の郵船官社船船慰にあり、いざや是より上陸して、代理店に談ず其の消息を聞かんものと立出る親部板に上り来る日本婦士二人即ち其一人は長村君なりき走て互に手を握て暫時無言、君の乗船は呼且ロンが港に入り今ま到着一時間にして此港を出づとおれば全く余が船の期に先ちて入りたるが為に紙鳶會社船なりき流し天涯の敗すとこみなんかと驚に歓喜に堪へざりしが今や鳶場其の界外異にして君目の温容又恋の如し呼悲喜。

——ヤマ——

物の成る人

細川三齋

朝起きの頃か鳴かず小鳥に恋夢ありて炎かたつまず

韓國の蠶業（承前）

通信委員
勤業技師
長岡哲三

十　殺蛹乾繭

韓國に於ける殺蛹乾繭法は日晒及火熱法の二種ありと稱し、掛べく、收繭後直に之を行ふを常とす、即ち日晒は晴天の日を選び屋外に筵を敷き其上に繭を散布するか若しくは家具に繭を容れて日光に晒すものなるが、手を以て繭を振りながらくと音をなすに至れるを以て乾燥の度となすと云ふ、火熱法に於ては三法あり一は竈に温突を拵へ乾燥し一は汗蒸室を密閉して乾燥し一は直接に一枚拵べに繭を拵へ乾燥する法にして、他の一法は鍋に繭を入れ火を焚きて之れを蒸るものなり、共に太陽殺の如く繭を振りて乾燥の度を定むるものゝ如し、今汗蒸室なるものの構造を略述せんに、直徑一丈内外の圓形室にして四圍天井共に煉瓦又は石若くは壁を以つて造り、室の一方に縦四尺横二尺内外の入口を設け、他の一方に、煙出を設けたる極め單なるものにして、入口にて火を焚き室内を熱したる後餘燼及灰等を除去し、地上に繭を散列して入口を密閉し、乾燥に進ずしたる時之を取出すなり而して此汗蒸なるものは大抵一部落一個所位を存し、草根木皮の力及ばざる重病者のみ入りて發汗せしむるものにして一室に付五六人乃至十人位を容れ或る一定時の間を充分に發汗せしめて室外に出づるものなりと云ふ（因に記す病者を收容するには一人幾錢と定めて薪料を徴すと云ふ）但し繭を乾燥するに汗蒸を用ふるは敢繭額の多き時にして、其少き時は日晒或は温突乾燥法に依り、其以上予は繭の乾燥と稱して之を蒸るものの如く、不完全にして、到底完全なる繭を乾燥するは上記の如く、不完全にして、當時に於ける韓國の氣候せしもの如くなり、而して當時は一般に乾燥勝なれば彼等は大抵殺蛹後直に繰糸するものの如くなるが故に、徹着繭を生ずる等のことは殆ど之れなきものの如し。

十一　製　絲

前章に述べたる如く布片に包み業務の都合を見て計ひ繰糸をなす、此際同功繭を選別するなく、且つ異色の繭も悉く混同す、繰の方法は直徑一尺内外の歯釜に約五合の繭を入れて煮沸し、繰糸中常に火を焚きつゝあり、箸の如きものを以て索緒を引き出し、繰糸を行ふ、三十万至四十万を一緒として、右手を以て繰糸を引き出

佛國ルベヤリ工場製絲試驗機械
見本室の一

廣げ乾燥し、其の上に左手を以て適當に巻き取ること、なる。次に之を至て、次に位置を限度とし之を取り、其の端を手に持ち、其の重たる絲は約巾四寸五分長さ一尺二三寸の面積に巻き出して房掛たり、面して乾燥し、是れ巻綿より絲を引き廣げ、四五遍、其の上に絲を巻き、其の上に絲を巻き、其の上に絲を巻き

行は一定の地に於て一定の生産者に賤買し、消費者又は商人に貴賣し暴利を享くるを以て不義の富を為す常とす、彼は又生産地に多くの富を設立せんと欲せば正に牙行の一種にして江浙内の地、銀額の所を以て特許料の外、一百三十兩の免許料を受けざるべからず、然るに必ず仲間組合を組織するを常とす。之れ公に加盟するものは互に恪守すべき規約を一定す、規約の目は變更すること少からざるも、概ね普共同の危險を防ぐ利益を増加せざるものゝ業務を執るに至り、農家の繭を携へて來て賣るを待つ、農家は殺蛹乾繭を一定の地に集合して賣買人の賣出價格を定め事業を鍋占せんとして行を問き近郷農家の繭を以て繭成るや直に數担乃至數十斤を舟又は肩にして來り、繭行に就きて賣買を為す、其價格は其低下せざるも他の繭行につき賣買するの恐れあれば恐らくは勿論、價の騰貴を待たんには繭行は其賣買せし生繭を直に繭を買入れ、繭行は殺蛹乾繭を製糸工場又は繭問屋に賣渡し、製糸工場は直に繭を呑んで之を煮繰し、繭問屋は繭を買入れ、繭行は賣買せし生繭を直に製糸工場又は繭問屋に賣渡し、製糸工場は又

した、併し育蠶上開放が宜しいものか、ドーカ、質問であります。

（二）上蔟后蠶兒の黒く腐爛するのは、如何なる原因でせうかとそれか豫防法をお示ひたい。

答　　農藝委員　松永伍作

（一）南風にして蒸熱甚だしき氣候、即ち高く温多く湿の空氣の南方から侵入する際のある場合には、南方を塞き東北を開放するを可とするけれども、常なる氣候の時は、時々南北共に開放して空氣の新陳代謝を圖る。但し高温多湿の場合に於ても、蠶室の掃除等に由り、東北のみ開放するも室内空氣の交換せないときは、暫時南方を開放して室内の悪氣を排出せしむるを可とするのである。

（二）上蔟後墨蠶の生ずるのは、軟化病若くは蛆害に罹りたるものである、之を豫防するには健全なる良蠶種を選び貯藏庫内に注意し、又飼育中注意周到其宜しきを得、蠶兒をして強壯に育成せしむるより外ないのである。

枯凋桑給與に就き質問

山形縣　通常會員　松田巳作

枯凋桑を給與すれば害があるとのことですが、此桑に水を散布し、少しく桑葉を生かへさしめて後、蠶兒に與へても矢張り害がありますか、若し害が有りとせば如何なる病蠶が出来ませうか、御明教を願ひます。

答　　農藝委員　松永伍作

僅かに枯凋の氣味ある桑葉は、蠶兒に食せしむるも害なく又甚だしく枯凋せし桑葉は水を散布するも生きかいらず且蠶兒も之れを食はぬものである。

但し晴天にして乾燥した氣候のときは、少しく枯凋した桑に水を散布して給するも害はない。

蛆蠅及鐵砲蟲の驅除法に就き質問

岐阜縣　通常會員　井川茂兵衛

（一）私は昨年の春蠶に蛆の經過を實地試驗せんと思ひ立ち、其當時繭より出たる蛆を土の中に入れ、其上に金網を掛け置きたるに、本年四月十五日夜を初めとし連々と後を追ひ一日に一二回の發するを待つ内に、遂に不殘斃死したのです、一體私は蛆の經過を實地に見たいのですが、發蛆してから五月中旬の桑葉の出る頃迄蛆を生活せしむる良法あらば御明教を願ひたい。

（二）天牛の幼蟲を驅除するに、小刀の用ひらるる場所あらば完全なれども若木幹元の内部に蝕入し居るものを驅除するに、樟腦精へ粉末除蟲菊を混和し、蠶孔内へ注入し

栓を爲し置きては殺蟲の効如何ん、御教示を願ふも桑樹の生理を害する樣なきや、御明教を願ふ。

答　　農藝委員　環學博士　佐々木忠次郎

（一）四月頃より漸々く蔟出する蠶蛆の繭を飼育せんと欲する時は、金網などにて造りたる蔟ひの中に入れてはならん若し石の蔟ひの中に繭を入る時は繭は蔟ひの中ちを飛翔する際に、悉く蔟を金網に衝突し、忽ち死するものである、依て繭を飼育せんと思ふならば、一坪若くは二坪の地を選み、之に桑株を植え込み置き其全體を紋帳若くば寒冷紗などにて造りたる紋帳にて覆ふべし、斯くする時は繭は久しく生活し蔟ひの中ちに繭を飼養する時は、時々少量の蜂蜜等の如きを與へて蟻を見ることが出來る、尤も石灰を飼養するときは、時々少量の蜂蜜を與へ置き繭の食料に供することが肝要である。

（二）桑樹の根際に蠶（天牛の幼蟲）を害したる時に當り、樟腦精に除蟲菊粉を混和したるものを注入すれば勿論殺蟲の効力がある、但し樟腦精の「アルコール」分は強度ならざるを要す、若し桑樹の根元に開きたる蟲孔は幹の上部に向ひ穿たれたる時は普通の花火線香の火を轉じ、之を蟲孔内に少く差し込むべし、斯くする時は右の線香より發散する薫煙は蟲孔を充ち害蟲を斃すものである、然れども此方法は幹面に開ける蟲孔にして幹の下部に向ひ深く穿たれたるものには、使用するも効なきものである。

桑苗の病害豫防に就き質問

千葉縣　通常會員　善場由松

桑苗を植付ける際に、紋羽病、貝殼蟲等の害を豫防する為め、桑苗を生石灰汁に浸しては如何でせう、又苗木の生理上に有害でせうか御明教を仰きたい。

答　　農學博士　農學士　堀正太郎

桑苗に害を生じて居る紋羽菌及ひ貝殼蟲を驅除するには、落葉後半年出荷迄の間に苗全部に生石灰、一貫五百目、水一斗の割合にて製したる、石灰乳の中に三四時間浸漬せなければならない、尚ほ長時間浸漬するも、苗には故障がなく病害蟲を悉く驅除し得られるのである。

育蠶中「フオルマリン」撒布に就き質問

岡山縣　通常會員　村上德海

（一）風穴種を飼育し炎暑甚だしき際には、蠶室内へ稀薄の「フオルマリン」液を噴霧器にて撒布し、乾燥を防ぐならば宜しいであらうと思ふが併し蠶兒には何等の害はありません

てしようか。

答　　學藝委員 農學士　林　驒　作

（一）蠶室内に稀薄の「フォルマリン」液を撒布するも蠶兒には大害はないであらう、併し給與する桑葉に直接撒布するは不可である、往々蠶兒を害するに至ることがある、室内の乾燥を防ぐためならば、「フォルマリン」を用ひず普通の井水を用ゆるが宜しからう。

製絲場の窓に就き質問

山梨縣 郡書會員　武井定市郎

製絲場の兩側全部に地上四尺の處に縱三尺は窓を設け、蒸暑さを覺ゆる頃は紙障子を立て、暑さを感ずる時の之れを開放するやうにして置くけれども、之れを硝子障子となし、酷暑の時でも取り拂はぬやうにしやうと思ふが、紙障子と硝子障子とは絲量の上に如何なる差を生ずるてせうか。

學藝委員　石居一郎

答　製絲工場に窓を設くるは光線の映射及空氣の流通を計るが爲めであつて、其構造及裝置の如何により、衛生上並に繰絲工程上に影響を及すことが少くない、然して紙障子と硝子障子とは互に一得一失があるけれども採光、保溫、並に修理者點より云へばどちらか硝子障子の方が得策である、而して此兩方共に絲量に關係は大差がない。

蠶蛆驅除に警察官の協力を望む

特別會員 長野縣技師　渡邊義武氏

明九年度に於て長野縣下種繭の総産量は一萬九千八百九十八石五斗五升二合にして、此等均發蛾歩合は百分の七十九なれば、製り出百分の二十一なる蛆害繭とすれば其總量歩合二百四十四石〇五斗六合、此蛆數十一億千二百五十七万五千〇一萬八千七百四十八石〇五斗六合、此蛆數十一億千二百五十七万五千〇一萬八千七百四十八石〇五斗六合の蛆種集せらるべきものとすれば貳百二百六十五石〇三石

り、然れども風穴中に貯蔵し置きしこの缶り水さに過ぐる日るとの一句は、聴て、醸造種家として疑心暗鬼を生ぜしむるの間機となり、若醸種を委託するやう思へらく風穴業者に依定上恐らく醸造種家の直接注意により、如何なる技術も到底及ぶべからざるなり。此の粗悪品の醸造種の害毒は、如何なる技術も到底及ぶべからざるなり。故に一般醸造家が、其の有名なる大製造家の盛名間で驕する時は、或に恐る其の醸造に匹に敵に平凡或は失位し其なるべかず。醸造種原来者たるもの深く自覚すべけんや然も故に絶滅あり、大家名士の情力は何能を此の平凡醸造種を過去の功績により其の信任を維持する訳に一般醸造家も此名家の製造種を飼育するにあらざるも多くに失敗し、若くは不其なる結果に終るとは不幾なるべし。然れども其の因醸造種におちずして自己の未熟過失として、却て之を魔力之を秘すれば其の劣等たるとなる、製造者自身惜らず、隣者者赤風かず、甲より乙延地より致命と逆次新方面に雷用者を誘て、何暫く其の空名を持続し、遂には一般醸造家に少なからざる損害を蒙しむる歪多、然り時間にも正質な判者なり虚然に水遠なる無責任者なり、最きに悲惨者心を秘み、得たる名誉の経頭とり遂にに滅落して又起つべからず、人道なしと鬼英雄の末路を忍むれるに至る、是れ醸造種製造家の進行と乗りし同一道なりずや。

人能く自己の力量を測り、自ら此を高為知なるに堅者に自己なる限りは勝しきする為なりと雖、然も本業の知きは其の損害自己なる戒るのみならず、深く信頼し来

荒船風穴醸造種貯蔵室の一部（暗の中の暗）（彰眼の中の光）

たる醸造は必要欠せざるも、洗練を実行するものと、変に係少なるは疑すべきことなりとす。由来洗練の目的たるや、勢面に附着せる病菌其他の汚物を除去するにあり而も風穴醸は其目的の晩冬初秋の高温に於て最も病原的活菌の活動を監に於ざるべからず、然るに実際は全く之れに反し、来しきは製種業自己の所用原種は洗浄する、既貯用醸造製種は、之れを独り乾燥して、必ちずに生産業するに及ぶ為なるべからず、手は其意を解するに苦ひと共に繁ち其間に不親切なるか思はずんばあらず。

風穴業の原始時代に於ては自己の清物等を貯蔵せしものなれば、自然其最後等に於て缺くる疑ありしは止むを得ざることなるも、醸種貯蔵室の間始

絲況

横濱市場

九月上旬に於ける横濱生絲市場の光景は、前月末に引續き交通杜絶等の關係に依り、依然實品に拂底を告げ、信州上一番一千三百拾五圓、定期絲一千三百二十圓の高直を示したるも、爾後各地の交通舊に復して現物積ゑ市場に顧はれ、之れと同時に各商館何れも見送りの態度に出でたるより、相場ヂリヂリ安の成行を呈し、遂に上一番七十圓安、定期六圓安を叩きしが、十六日には三井物産、英一番等何れも優勢に買出でたるを以て、市場稍活氣を帶び、以來絲價漸次高直を報じつゝ相應の手合行はれたり、然れども之れ未だ其の氣直りならざりしか、間もなく下捍の傾向となり、市況何んとなく鈍狀を示したりしが、月末に及んで漸く引締り、絲價は安直より三十五圓高の一千二百五十圓を唱ふるに至り、買人の顧はれ模様に依りては、尚一段昂進すべく見タ、手堅き歩調を以て越月したり。

而して客月中に於て最も高價に賣行きたるは靜岡縣城南社細の一千四百七拾圓にして、最も低價なりしは福島縣良製社鳩座繰の一千二百拾圓なりとす、例に依りて今年一月以降の最高價と前年の夫れとを比較對照すれば左の如し。

生絲最高價月別前年對照表

	明治四十年	明治三十九年	銘柄之部
一月	山梨縣矢島組金太	一、三二一圓	愛媛縣河野製絲太
二月	山梨縣矢島組金太	一、三〇〇	神奈川縣見弟社細
三月	岐阜縣金喜製絲細	一、四〇〇	山梨縣風間製絲太
四月	東京府羽村館	一、四五〇	埼玉縣埼玉製絲太
五月	群馬縣交水社惣賣所	一、四三〇	愛知縣國寶社新細
六月	山梨縣矢島組金新太	一、三一〇	愛知縣國寶社細
七月	埼玉縣春澤製絲細	一、四一五	愛知縣國寶社細
八月	埼玉縣春澤製絲細	一、四五〇	山梨縣矢島組太
九月	靜岡縣城南社細	一、四七〇	靜岡縣川津製絲市社細

	價格	銘柄
一月	一、〇九〇	二二五
二月	一、〇九〇	二一一
三月	一、一二〇	二八〇
四月	一、一二〇	二三〇
五月	一、一二〇	二三〇
六月	一、〇八〇	二五〇
七月	一、〇〇〇	二一〇
八月	一、〇八〇	三三五
九月	一、〇九七	三五三
	一、一一五	三五五

鳩座繰の一千二百拾圓なりとす、例に依りて今年一月以降の最高價と前年の夫れとを比較對照すれば左の如し。

	明治四十年	明治三十九年
一月	一、二一八、三三九圓	一、〇四一、五六六圓
二月	一、〇四三、二六六	一、二五五、五〇四
三月	八、四七五、〇八四	二、一七〇、八、七一三

賓に九月中の横濱生絲市場は水害相場とも稱すべき特種の高値ありし反動なりしか、至て亂調子なりしも、雪要の大勢は別に變りなく、歐米とも終始弗々なから買氣を有し、安値と見ては取入れしを以て、市中手合高の如き前月に比してこを約六千個の減退を見たれ、之を前年同月の二萬九千三百個に比すれば、尚ほ増加して二萬七百個に達し、結局左表の如く千三百十八萬餘圓の輸出額を現すに至れり。

	輸出額
四十年	一、二一八、三三九圓
三十九年	一、〇四三、二六六
三十八年	八、四七五、〇八四

七月以降累計

	輸出額
四十年	一、二五五、五〇四圓
三十九年	二五五八六六、一七四
三十八年	二一、七〇八、七一三

	輸出額
三十七年	一、二六九、七七八

右は要するに歐米諸國の紬物に對する需要依然好況にして輸出數量増加したる結果に相違なきも、本春來絲價の高位は容易に崩落し一時手百五十圓を見せたるとありしも、概して能く二百圓以上を維持せしを以て、勢ひ輸出金額を増加したるものなるべく、最近四ヶ年間の九月に於ける平均價格を見るに實に左の如し。

	輸出額
四十年	二、四〇〇、五八三

	平均價格
四十年九月生絲賣買平均	一、二五七圓
三十九年九月同	一、〇四五
三十八年九月同	一、〇六五
三十七年九月同	八九九

如此、本年の我生絲賣易は絲價常に高位に在りて實に空前の現象を示したるものと云はざるべからず、然れども今後果して能く此高位を維持し順調に進み得るや否や、抑も絲價の前途に就ては從來强弱二說に在りて何れも其據る處に相當の理由あるとなるが、横濱賣易子の就く處頗る參考に値すべきものあるを以て之れを揭げんに、由來相場は人氣の裏を往くと云ふ位のものにて、中々豫想通りには行かぬものなるより、强氣と雖ども亦弱氣の云ふ所を聞きて進退攻守其時宜に投ぜざれば、遂には不覺の失敗を蒙るとなしとも計られず、故に茲に吾人の持ち合せの弱氣を吐露して敢て强氣の參考に供せんとす、本年新絲以來の平均相場は千二百六十圓に該當し、昨年は「あれ程の大騒ぎを爲した」れども、其出來直の六月より九月迄即ち新絲より新絲立ての總平均は、千百圓にして、本年は僅に四ヶ月に於いて既に昨年の總平均より百三十圓方も上位に在り、若し今後現在の絲價を保持して、假に千二百四十圓平均に賣行くも、昨年よりも實に百五十圓方の高直を買入がよく取入れらるゝや否や、飜つて一歩を退き今後假に平均千圓に賣行くも、昨年の總平均より三千圓方も高直を取入るゝか、千二百圓も如何と盛ぜざるを思へば、今後平均千二百十圓ど前途に非常なる安直あるを豫想する理由とす、米國向の新絲以來買控へなるは、先約定を締結したる結果にして、其輸出表を見て米國向は歐洲向より多數の買入を爲したるを知ると共に、吾人は屢々國事報告の意らせし如く、米國商人の先安と云はざるも屢々國事報告の意らせし如く、米國商人の先安を見越し居るの事實なるを信ずるとに於いては、米國商人の腦裡には平均千三百圓を以て締結したる先約定の損失となれる埋合せとして、今後安直ハ買入れを爲して買廻らさんとの考へあるを推測せらるるなり、之れ市況の前途を悲觀する二理由とす、世界の繁榮は到底一ヶ年位に變ずべきものに非ず少なくも本年中位は其餘勢を保つべしと豫想するも歐米大陸共財界に穩調を來し、株式の暴騰して未だ引返を見ざる等より推測すれば、世界の繁榮は乘に角頂打ちとなり、生絲市場に於いては本年二三月より五六月に於て先約定の締結せたるが其繁榮の極度を示したるものと見受けらる、之れ市況の前途を悲觀する第三の理由なり、本年内地に於ける夏秋蠶は、一時前年の半作なるべしとの見越にて、海外に傳へら

れたるも、今や農商務省の公報に依れば、前年より夏秋蚕を通じて其敬繭豫想は却て一割強の増敬なるを以て再び此の反動の起るは云へまでもなく、而して供給力の總體は日本は昨年より三割増、支那も三四割増を下らざるべく、佛伊も多少の増加なる如くにして、世界に於ける供給は何割かの増加を示せること疑ひなし、之れ市況の前途を悲觀する四理由とす云々如何にも悲觀極まれる所論なるが如きも亦一考の餘なきにあらざれば當業者宜しく之れを以て他山の石と爲し、進退其宜しきを失はず、前年に優る好成績を奏せられんことを。

今左に本月中の生絲集散種別表を掲げて參考となさん

明治四十年九月自一日至三十日生絲集散表

明治四十年九月自一日至三十日生絲集散日別表

日次	張日	入荷	手合	賣了	引戻	輸出	積方	國名	社名	別	最高	最低	直	抽製
一日														
二日	七二七		一七一	五四四				横浜	本製	絲	一、二四六	五五〇		日曜日
三日	五八二		一四三	三五五				信濃	諏訪	社	一、二二、五〇	一、二〇〇		九十二會員の往反丁會員の出來ざりし合に二會員の少しく手出來ざりし
四日	一、〇〇九		三五六	四一七	二九			武蔵	諏訪	絲	一、二四〇	一、二〇〇		諏訪筋強く中々商談なく入荷待見送の状態なりし
五日	五八四		二九六	五五一	一八			伊勢	浮世	社	一、二二、五〇	一、二〇〇		諏訪筋強く中々商談なく入荷待見送の状態なりし
六日	三、〇〇九	七三	二一五	一一五	一、三九九	五九		信濃	東	社	一、二四六	一、二〇〇		日曜日
七日	一、三七八	三〇	三〇二	三八	四九三			武蔵	欧	絲	一、二四六	一、二〇〇		九十二會員の往反丁會員の出來ざりし
八日	一、一二二		二九八	一、一二一	一、一二一			信濃	行	社	一、二二、五〇	一、二〇〇		諏訪筋強く中々商談なく入荷待見送の状態なりし
九日	一、一二一		三四九	六七	二四			伊勢	御	絲	一、二二、五〇	一、二〇〇		諏訪筋強く中々商談なく入荷待見送の状態なりし
十日	一、一二一		六七	五〇八	二〇			信濃	東	社	一、二四六	一、二〇〇		日曜日
十一日	一、〇三八		二五九	三三三	七九	七〇三		信濃	中	絲	一、二八八	一、二〇〇		九十二會員の往反丁會員の出來ざりし
十二日	一、〇〇九		一一七	一、八九五	五九			信濃	伊	社	一、二七七	一、二〇〇		諏訪筋強く中々商談なく入荷待見送の状態なりし
十三日	一、四五七		八〇五	三四七	五二			信濃	清	絲	一、二七七	一、二〇〇		幾分買の傾向なりしも見送り相場弊に陥りなりし
十四日	八四六		七二四	五三二				上野	邪	社	一、二七七	一、二〇〇		信州物の商ひ出來ざりし弗産其他諸産の商ひ出來ざりし相場は前日三倍比べ十五銭方安直なり
十五日				九五四				武蔵	欧	絲	一、二八八	一、二〇〇		欧州向へ直なる買て廻へられ久方振りの商内を出けり
十六日	一、七八七	八八九	一、〇〇六	六四四	九			信濃	東	社	一、二四一	一、二〇〇		前日同樣にして靜かなりし
十七日	一、四六九	六四四	六九五	六二九				信濃	行	絲	一、二四一	一、二〇〇		強に十圓安なる買て安かなりし
十八日	二四九	一三七	六二九	三一	一、〇五四			信濃	東	社	一、二四八	一、二〇〇		少しく拆合たるか金殺は不引立の成行なりし
十九日	一、二二一	六五	一、〇八八					信濃	同	絲	一、二四一	一、二〇〇		繰り返へられ光りて強へ保合の成行なりし
二十日	一、二三〇	二四三	一、〇三六	一四三				信濃	片	社	一、二四一	一、二〇〇		日曜日
廿一日	一、一二八	一一三	四三八	一一三	一、八三六			八王子	谷	絲	一、二四一	一、二〇〇		九十二會員の往反丁會員の出來ざりし
廿二日					三九七			信濃	東	社	一、二四八	一、二〇〇		諏訪筋強く中々商談なく入荷待見送の状態なりし
廿三日	一、九六三	二四八	九一五	二六				信濃	組	絲	一、二四一	一、二〇〇		日曜日

日次	張日	入荷	手合	賣了	引戻	輸出	積方	國名	社名	別	最高	最低	直	抽製
廿四日	一、一二八	一一三	二四八	一一三	一、八三六			信濃	組	社	一、二四一	一、二〇〇		九十二會員の往反丁會員の出來ざりし
廿五日	一、一二八	一一三	二四八	一一三	一、八三六			信濃	組	絲	一、二四一	一、二〇〇		諏訪筋強く中々商談なく入荷待見送の状態なりし
廿六日	一、二二〇	二四三	一、〇三六	一四三				信濃	片	社	一、二四一	一、二〇〇		日曜日
廿七日	一、二二〇	二四三	一、〇三六	一四三				信濃	谷	絲	一、二四一	一、二〇〇		九十二會員の往反丁會員の出來ざりし
廿八日	一、二二〇	二四三	一、〇三六	一四三				八王子	甲州	社	一、二四一	一、二〇〇		諏訪筋強く中々商談なく入荷待見送の状態なりし
廿九日	一、二二〇	二四三	一、〇三六	一四三				信濃	諏訪	絲	一、二四一	一、二〇〇		日曜日
三十日	一、二二〇	二四三	一、〇三六	一四三				信濃	諏訪	社	一、二四一	一、二〇〇		九十二會員の往反丁會員の出來ざりし
合計	一〇、三九三	三一、九四六	一七、九六六	一、四一〇	二三、七二〇	三九四〇	二、〇〇一	八六一	一一一	七一四	二三、六五九	五九八〇		

器械	持越	入荷	賣了	抽方横浜	繰越
座繰	六、七二三	二三、七二〇	二、二二、二三	五九八〇	一七、六二二
繰返	一、一四〇	四、六八一	二、八一七	五一四	三九四〇
雑絲	一、四三五	三、五四三	二、九一六	一一一	二、〇〇一
	九五	二			八六一
合計	一〇、三九三	三一、九四六	一七、九六六	七一四	二三、六五九

備考

一、表中最位個に九頁目を指す

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査機越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る

三、前月分の繰越と本月分の持越とは其數一致せざるは商談中のものありしに依る

四、繰越品外に商談中のものありと知るべし

五、賣了中米國に輸出せるものは六千四十俵にして歐洲に輸出せるものは四千二百四十三俵なりとす

倘左に生絲集散日別表を掲げて此參考となさん

器械	略号
同絲	同
同社	社
同組	組
皮製	皮
撚製	撚
仮製	仮
拆製	拆
十	×

尙左に本年一月以來の生絲集散の狀況を明かならしめん爲め月別表を示すべし

生絲集散前年對照表

年月次	持越	入荷	賣了	機織	輸送	出廻	大祭日
廿四日							
廿五日	一、六五三	九八五	一、五二七				
廿六日	一、六六〇	一七一	五〇八				
廿七日	九七二	四九二	八六六				
廿八日	一、三二三	四二七	一、四七九				
廿九日							
三十日							
合計	三一、六四六	八、八七三	一七、九六六	九六六	一〇、二八二	七一四	
廿四日							
廿五日	八五	九八二	三七	信濃國尾張	俊澤		
廿六日	四〇		二四	信濃國飯田	林	野澤	明
廿七日	一八		一三	信濃國岡	武	社	社
廿八日	一八		三二	信濃國岩代國真田	製	社	委
廿九日							
三十日							
合計	一、二二五	一二三四	四六	信濃國岩代國東	製行	社	社
廿四日							
廿五日	一、三五四	一、一二九	一、一二六	一、一二六	一、一二六	一、一二六	一、一二六
廿六日	一、一二六	一、一二六	一、一二六	一、一二六	一、一二六	一、一二六	一、一二六
廿七日	一、一二五	一、一二五	一、一二五	一、一二五	一、一二五	一、一二五	一、一二五
廿八日	一、一二五	一、一二五	一、一二五	一、一二五	一、一二五	一、一二五	一、一二五
廿九日							
三十日							
合計	一、一二〇	一、一二〇	一、一二〇	一、一二〇	一、一二〇	一、一二〇	一、一二〇

甲九十六日館其他へ手合あり、相場は概して六七錢方安なりし

一、一二六六〇 氣候なる賣望は哈り之曾無の現狀として何分武力なる賣望は成行なりし

一、一二五五 太筋通ふに限り五七銭方高直に出來したりし

一、一二五五 太筋通ふに限り五七銭方高直に出來したりし

一、一二五五 一般に高値なる賣望は一般必要買なる爲て人氣小早く十錢高なる只て夫れ々遂當品の買行

一、一二五五 日盟日

多少注文途しにる向あり氣配手堅く逆行き注文に十錢高なる只て夫れ々遂當品の買行きか告げたりし

里昂市場（八月二十四日發）

當地市場の氣配引續き強音手堅く持合ひ、買人も延べ買ひ出て、入荷每に實行く有望なり。左れば市價は非騰調の好景氣に連れて、益々騰貴方に向ひ居れり。此際未曾よりの注文は杜絶して來らず、若又來らんには相場は一層の上進を生ずべきは必定ならん。故に餘り高直となりて需用を減ぜざるべからず。要するに目下の狀況は需要に供給の數に超過し、爲に相場も次第に高直に傾きつゝあり。而して其上進の步河も手堅後々に進わ有樣より推察すれば、將來の市況も好況なる現けすべき見込充分にあり。

日本生糸部生絲の當市場の週の市況は手堅くして、賣人先行高見感にして強氣勝候

同	一半二	十一一十三		六十四法
同	一半二	十一一十五	五十八—二十五	五十八法七十五
同	一半二	十三一十五	五十七半—五十八法七十五	五十六法
掛田	二馬	（伯爾中ロ）		

尙里昂駐在由田四郎事より生糸一井に對する當領況の如し。

生絲市況 佛然硬、相場は一進に進む傾向あり。

生絲市況 當地週入中には所々海外安値の取引を為し入荷有り。試を著る由なるか、買手側は却て益々生成安心見越し、市況は慢して一なり、手なから追々

觀官に於ける生絲市況に付同 誌在小熱經濟事より電報左の如し。

生絲市況 佛然硬、相場は一進に進む傾向あり。九月十一日發電

生絲市況 當地週入中には所々海外安値の取引を為し入荷有り。試を著る由なるか、買手側は却て益々生成安心見越し、市況は慢して一なり、手なから追々

組織物等注文の割合に迫りたれば、注文の出方次第にては未た落著さる「ストライキ」も或は何とか捗ひ、市況も間復に至るべきか。（九月十八日經電）

生絲市況 佛然硬、九月廿二日發電

生絲市況は相場さず靜相場況に連れ強氣。十月一日發電

廣東市場

廣東に於ける生絲市況に付き局地駐在上野領事より去月十八日附左の如く報告ありたり。

本期一間間、自ゝ月二日至同十五日、四日に於ける當地方生絲市場は一般に沒靜不振の裏にして、總て其五六百個の取引ありしに過ぎずして、殊に其價格は市場沈靜に應して引續き下り、數の引渡未了の分も、本期間殊末の孤少の取引の外は、僅に安値唱なるすことを好とする狀態なりしを以て、遂に市場沈靜なる以て本期間も終るに至りたれとも、今熱分以後の引續ありたんには、相當の買手見たることなるへし。

次表に本期間取引せられたる價格の一覽にして、前期間取引のものに比し、僅少の異動を見るに過ぎざり即ち左の如し。

Ipo Ipo物	自ゝ九一 至一一	一一三〇
細馬綸	自九至一一	一一〇六〇
順德享經盛	自一一至一三	一一〇六〇
紗貢綸	自一一至一三	一一〇四〇
廣元享	自一三至一五	九九〇
鬱和綸	自一三至一五	九八〇
讓記兩和興	自一六至一八	九〇〇
Ipo 2	自一八至二一	自八二五至八三五
Ipo 3	自一二至一三	自七五〇
來國尚ム、エキストラ、エキストラ、ビーニ可乃至一ム、アニール	自一四至一六	至七六〇

相場は一進に付き九月廿六日附、ビーニ可乃至一ム、アニール物に付き九百六十弗、ビーニ可乃至一ム、アニール物に付き九百六十弗、エキストラ、エキストラ物は本期間分を以て終了せり。

會務錄事

總裁殿下埼玉支會へ台臨

常に本邦生産業殊に我蠶絲業に對し、深く御心を注がせ給ふ　總裁伏見宮貞愛親王殿下には御繁務の御身に渡らせ給ふにも拘らず、本會の懇請に對し、來十一月初旬埼玉支會第一回臨外三種品評會褒賞授與式に台臨の義御嘉納あらせられたり、斯く特殊の恩遇を辱ふするは啻に同支會の名譽なるのみならず、一般當業者の名譽とする處にして、洵に感激措く能はざる處なり、希は會員諸氏殿下の深き御心を推し奉り、愈斯業の爲に努力せられんことを。

有功章の授與

左の三氏は本會の旨趣を贊成し特に會務に貢献し其功勞顯著なる廉を以て、總裁殿下より五等有功章を授與せらるゝことゝなり、本月九日福島支會總集會に於て、本會々頭より交付せられたり。

福島縣　犬塚盛太郎
同　島志朗
同　西戸乙止郎

支會職員の囑託

今回支會長の推薦に依り、左の如く本會々頭より囑托せられたり。

新潟支會委員部長
北蒲原　稲見真蔵　　中蒲原　清水中四郎　　四蒲原　田宮徳義
南蒲原　藤島勇政　　東蒲原　小山鶴作　　三島　稲田甫吉
古志　稲垣栄正　　北魚沼　四戸松太郎　　南魚沼　雲藤文吉
中魚沼　北見原一郎　　刈羽　神戸豊　　東頸城　石川越夫
中頸城　阿部致　　西頸城　萬平野定之助　　岩船　金森輝夫
佐渡　深井廣邦　　新潟　吉田真治郎　　長岡　岡子晋牧野忠篤

同務議員
小林右次郎　五十嵐石松　　小池與惣太　　大野捨太　　小出淳太
三宮真吉　三輪徳次郎　　野木慶二郎　　山田政嗣　　山田已太郎
櫻井庄平　山賀五平　　横田五三八

宮城支會委員御長に交迭あるに依り其後任及更に商議員を左の如く囑托せられたり。

宮城支會協議委員部長　和泉寛蔵　　同商議員　遠藤元良

地方委員部職員囑託

地方委員長の推薦に依り地方委員副長は總裁殿下より、同委員部長及地方委員は本會々頭より囑托せられたり。

廣島地方委員副長　桑原八司

同委員支部長
佐伯　島田貞一　　雲藝　吉田糧已　　世羅　葉木薯
神石　黒川林之助　　安佐　粕谷五郎　　甲奴　坂本忠親

岡山地方委員
岡本　篤親　　坪田熊吉　　小山幸次郎　　大林周吉　　山崎信丸
橋本正之　佐藤勉二　　三宅親　　中田寅吉　　畑好蔵
小川藤一　多賀耀　　緑尾熊一郎　　谷八蔵　　東多平
原貞誠　谷本百蔵　　柴田徳蔵　　土肥長徳二郎　　辻政徳
水島義

特別會員の推薦

左記の諸氏は本會の旨趣を贊成し會員募集に盡力せられ、其功勞多からざるを以て　總裁殿下の臺聞に達し今回特別會員に推薦せられたり。

山梨支會　雲野鶴吉　　中澤長吉　　原耕
愛知支會　小林知太郎　　山本勇次　　鈴木先次郎　　浅井太郎吉
星野愛次郎　　神谷弾作　　足田武次郎
福島支會　細貝順吉　　濱名魁蔵　　島志朗　　小山鶴作

日佛協約成立の祝詞に對する謝狀

曩に本會は日佛新協約の成立に關し、佛國里昂蠶絲貿易商組合會頭に對し祝詞を送りたるに、今回左の如く同く祝意を表せる謝狀を送り來れり。

謹啓

去ル七月八日付貴簡ヲ以テ今回日佛兩國間ニ締結セラレタル協約ニ關スル祝詞ヲ賜リ正ニ拜受致候

會頭閣下閣下ノ御意見ノ如ク余モ亦此ノ協約ハ兩國間ニ常ニ存在セル良好ナル交誼ヲシテ益衆固ナラシメ兩國ノ貿易ヲシテ愈隆盛ナラシメ且ツ東洋ノ平和ヲ確保スヘキコトヲ確信致候

右謹般ノ點ニ鑑ミ余ハ欣喜ノ至ニ不堪候

會頭閣下余ハ閣下ノ祝詞ヲ謝スルト共ニ茲ニ余ノ深甚ナル敬意ヲ貴下ニ表示致シ候

於里昂千九百七年八月十日

里昂蠶絲貿易商組合會頭

東京　大日本蠶絲會々頭閣下

Lyon, le 10 Août 1907 Monsieur le Président
de l'Association Séricicole du Tonan à Tokyo.

Monsieur le Président,

J'ai l'honneur de vous accuser réception de votre lettre en date du 8 Juillet dernier, par laquelle vous m'adressez vos félicitations à propos de l'Arrangement qui vient d'être conclu entre la France le Japon.

Comme vous, Monsieur le Président, je suis convaincu que cet Arrangement, en fortifiant les excellentes relations qui ont toujours existé entre nos deux pays, développera leur commerce et assurera la paix de l'Extrême-Orient.

A ces divers points de vue, je m'en réjouis très sincèrement.

En vous remerciant de votre communication, je vous prie d'agréer, Monsieur le président, l'assurance de ma considération la plus distinguée.

Le Président,

E. Poyen.

松平會頭其他役員の出張

本會々頭松平男爵は新潟支會總會臨場の爲め、本月三日加藤書記を隨へ新潟市に出張、同六日歸京せられたり、尙同會へは本會理事なる本多東京蠶業講習所長及農商務技手鹽谷清多郎氏も同く出張せられたり。

又本月九日福島支會第五回總集會を同縣相馬郡中村町に開催せるに依り、本會より松平會頭代に本會幹事なる加賀山蠶絲課長及東京蠶業講習所技師なる辻鳴太郎、林犀作の兩本會學藝委員は同八日出發同會に臨み、松平會頭、辻學藝委員は

新潟支會第一回總會

大日本蠶絲會新潟支會第一回總會は、去四日新潟市物産陳列館樓上に於て開催せられたり、本會よりは松平會頭本多理事農商務書記官より國分技手臨場、濱樓知事以下來會者無慮七百餘名極る盛會なる樣の式後島津館に於て懇親會を開きたるが出席者三百餘名、未だ曾て見ざるの盛況なりし、詳細の状況は次號に掲載すべし。

會頭北陸出張の概況

本會會頭松平男爵は富山支會蠶業試驗品評會受賞授與式臨場の爲めと、石川縣骨董縣主催の慰謝と招待により、青柳理事及小池事務員を隨へ右の三縣へ出張せられたることは既報の如し、今富山支會品評會の概況と巡遊各地の概況を一瞥なに掲げたる次第なり。

富山縣　九月廿日午前十一時を以て新橋を發し、未聞の洪水は福井附近の鐵道を破壞したる數日後のことして、谷鉄小山間は徒歩せざるを得ざりしが、男爵の榮氣にて無疵なるを見きもせず、蕭々たる降雨を衝し一路に二里半を合羽姿にて所々乘車、明くれば入日富山の縣廳前旅館に着されて、小山に至りて所々乗車、午後二時半富山縣知事、水井内務部長、浸邊技師、佐倉蠶業試驗場長外幹十數名の案内に、旅車森々八尾町に向ふ、八尾は男外十町五百程の地名なり、有志者盛會にて、行々迎ふ酒と肴と沿道の人家に於て數手の男女學生は沿道の人家に整列し、音樂隊を出して音樂を奏する等誠心誠意の歓迎の樣子、町の入口は蠶業試驗場にて作れる大なる鳥居を建て、且等に國旗を掲げ、野頭絲技を挿み金銀色の幟形を作りたるみなこに付し、其下に標語を釣るす等、全町挙て品評會の開催に賛成し且非常盛事を祝せり、而して會頭一行は旅宿を定められたる當地方有名の富山會館に着したるは今日九時三十分なりし。

品評會表賞授與式

大日本蠶絲會富山支會第一回蠶種鑑生絲品評會は豫定の如く、九日午前十時八尾町開名寺に於て表賞授與式を擧行せり第一船にて各員著席第二鈴にて松平會頭、川上富山縣知事臨場、君が代の奏樂に次て水井幹事長は式辞を朗讀し、渡邊審査委員長は左の申告文を朗讀せり。

申　告　文

大日本蠶絲會富山支會第一回蠶種鑑生絲品評會は、去月廿日開會し、今日迄の出品點數蠶種百廿點、繭千三百十九點、生絲五十九點、總計一千五百點其他參考品二百點に達し之が出品者は十七郡に及ぶ、而して出品者の住所は各郡に分散し、其成績は

茲に於て松平會頭の褒賞に次て川上支會長より賞品を授與せらる、一等の受賞者を掲ぐれば左の如し。

明治四十年九月九日　蕃業恵眞長発七位　波邊　実八

蠶種一等　倉嶋佐吉外壱名　蠶種一等　東磯波郡津山見村藤田勘四郎

蚕糸一等　東磯波郡津町宮田相三郎、永見金川治郎喜一、綾貝郡中村園四郎、

蚕糸一等　東磯波郡津山見村藤田勘四郎

繭一等　西磯波郡津町宮田相三郎、永見金川治郎喜一、綾貝郡中村園四郎、

上新の江長松、射水郡鳥栖郡蕃業賞三樹

次て蠶業功績者授賞式を挙行せられ正直農水産省松七兵衛官次官三郎藤澤五三郎前田久太郎等なり。

終て松平會頭は謹慎なる態度を以て首吐朗々左の告辭を述べられたり。

告　辭

茲に本日年頃て次日本蠶絲會富山支會の一回品評會褒賞授與式を挙行せられ正直農水産省松七兵衛官次官三郎藤澤五三郎前田久太郎等なり。

終て松平會頭は謹慎なる態度を以て首吐朗々左の告辭を述べられたり。

告　辭

茲に本日年頃て次日本蠶絲會富山支會の一回品評會褒賞授與式を挙行せられ正直農水産省松七兵衛官次官三郎藤澤五三郎前田久太郎等なり。

蠶種一等　倉嶋佐吉外壱名　蠶種一等　東磯波郡津山見村藤田勘四郎

蚕糸一等　東磯波郡津町宮田相三郎、永見金川治郎喜一、綾貝郡中村園四郎、

繭一等　西磯波郡津町宮田相三郎、永見金川治郎喜一、綾貝郡中村園四郎、

射水郡鳥栖郡蕃業賞三樹

上新の江長松、射水郡鳥栖郡蕃業賞三樹

次て蠶業功績者授賞式を挙行せられ正直農水産省松七兵衛官次官三郎藤澤五三郎前田久太郎等なり。

終て松平會頭は謹慎なる態度を以て首吐朗々左の告辭を述べられたり。

告　辭

茲に本日年頃て次日本蠶絲會富山支會の一回品評會褒賞授與

のにして別共同製糸を設すの緒を開けりと云ふ、當地方の生糸は徳米粉と異て地質精密なりしも、本年蘇經より二千五百間町貸と千三百餘の補助を受け、原動力は水車を用ゐ三百部福医器を備附け、組合内約十釜の結果其成績の現はるゝ、共同以外の地質九百目六百二千五百匁の三種に過ぎざるに、横浜貿易に同七百十圓の價値なりと云ふ。

記念の植樹　當町有志者は去る頃の來賓を機として、八尾公園に記念樹を植付ることゝなり、會員は公園の喜驛茶屋なるより、各共同揚屋始の構内に植樹することゝなり、會員は恐縮な用に知事は恐縮な各位に義植なりしの。松柏は當町の盛ものにして、多大の國利を空しくするに至れり、故に其成績は明治十六年の創立にして爾に七十餘の小製糸場なるも北部を來製糸場に比しければ此結多少劣に知られる、十中の糸場を製し本年一千四百餘の繰糸數百間餘に止るか以て者稀なる聞名寺に歸れり。

盛運　**組製糸場**　は明治十六年の創立にして爾に七十餘の小製糸場なるも

八尾の講話會　午後二時蠶業講話會を聞名寺に開き、當日年前中より降雨經一風さへ加はりて講話會の如きは切らず、流に當地著名の大盛感なる本堂金龍の説地なく、感覚二千餘名は切られねば、無人に吉地著名渡邊技師の相合て演説に進み終一時間餘の講演を爲して歸堂し、次に用上知事の組合に會員百壇四人へ時間餘にて演説を終れり　講演中雨滴來は最も熱心に傾聽し講常に感動を與へたるものの如くなりと。

歡迎の宴會　此夜當町自宅樓に於て一行歓迎の宴會あり來會者八十名、生糸同業組合長吉文勉三郎氏代表として歓迎の辭を述べ、會員起て來賓一同に代りて答挨あり、主客十二分の飲を盡し九時に歸りて散會せり。（未完）

蠶桑雜觀

▲野生絹絲發見

組實驗在小熊郡總領事の報告に依れば、組實驗に住する一團體人が數箇月以前同郡市場の附近に於て野生絹絲の發見に當て組織を編成せんことを勧めたため今回出張第一六八四號を以て報告せり。

▲本邦の絹絲紡績業

現今内地に於ける絹織品實上金高二億五千萬圓を計しり、内絹織物出金高三千五百萬圓、機織物加の現勢を見るべきや疑なしと雖、向組絹紡績に進ては其割合政府が勧業の爲め、新町紡績所の創設以來紡工三万余人を紡績せしに其間の進歩頗る顕著と云ふ、其間の成績は各紡績會社と官立工兵廠紡績會社との二者あるのみ之に帰實製品の技術米方然後の發明は各紡績會社に帰し官立工兵廠は其割合政府が勧業の爲め、全く間接の指導に伴ふ略に伊藤崎鉄仙氏が升後絹織の練糸として用ひられ、其間に一小部分に限られ有効なるに、現今其技は大に改善せられ、政方其間燒の應用となり

は百分の拾分の拾の利なり得べし之を過算せば百分の拾六の利に當るべしと云ふ馬の原價を問ふ

以上代數

(第二)二つの相等しからざる直線の和の半分は其直線の間の比例中項なる直線より大なり

以上幾何

動物學

(一)蟻の員殼に飲ま其構造及其開閉作用を說明せよ

(二)飛蝗(バタタ)の外形を詳記せよ

植物學

(一)地下莖と根との區別如何

(二)葉の開度とは如何

物理學

(一)水は淡面より、油は下面より凍る理由如何

(二)音波とエタメ(の構造及其理由を說明せよ

化學

(一)半ケフリメの炭酸瓦斯を製するには幾何程の炭酸官鹽(結晶水を含まざるもの)を要すべきか

但し原子量に酸素一六、〇〇炭素一二、〇〇ナトリウム二三、〇五

(二)水中にトリウムを投じたるとき生ずる化學變化を說明せよ

地理

(一)本邦近海の潮流を問ふ

(二)歐羅巴洲の略圖を畫き左記の名稱を記入して其位置を示すべし

1. アドリアチク海 (Adriatic Sea)
2. アルプス連山 (The Alps)
3. バルチク海 (Baltic Sea)
4. ゼノア (Genoa)
5. 里昂 (Lyons)
6. 米蘭 (Milan)
7. マンチエスター (Manchester)
8. 馬耳塞 (Marseilles)
9. ロール河 (R. Rhône)
10. 高加索連山 (Caucasus Mt.)

作文

滿蔵旅行から勤むるの文

英語

譯讀

1. It is no proof that one can not do a thing because he does not like doing it; it is hinder to do what one does not like—that is all.
2. Never take a mean advantage of any one in any transaction and never be kind upon people who are in your power.
3. When we say that boys and youngmen should get into the habit of rising early we mean that they should do so by acquiring the corresponding habit of going early to bed.
4. He is not only idle who does nothing, but he is idle who might be better employed.

文法

1. Correct the errors, if any, in the following sentences:—
   a. Your brother are three year elder than me.
   b. I am very much tired to walk some longer.
   c. The book is written with such an easy English as beginners can understand it.
2. Change (a) into the indirect form of narration, and (b) into the direct form:—
   (a) Want lend him at Yokohama he said, "I came here three weeks ago."
   (b) I asked him if that was all he could tell about that matter.

和文英譯

1. 鶴はあんなにたくさゝ見出でありながら皆三番くらいなれば皆三番くらいの鶴を人類に為へ

ようと云ふ人間と雖ども人類から鶴を為ようと云ふ人類から鶴を為ようと云ふ人類から鶴を為ようと云ふ

長野縣　小林牧童
群馬縣　高橋愛作
福島縣　中田太郎
宮城縣　御園義三
山梨縣　原　啓

養蠶講習科御學生

清岡鄭照　評
清岡悅穎　梁

製絲講習科本科男生

長野縣　百瀨利藤次
長野縣　高内敏爾
三重縣　登田久五郎
愛知縣　今泉修一
德島縣　鈴木清市
岐阜縣　大塚貫
長野縣　木村榮吉
群馬縣　山口豐吉
岐阜縣　高坂周一

製絲講習科本科女生

福島縣　井上ゞん
福島縣　渕　やな
鹿兒島縣　鮫島基彦
山形縣　波邊孫七
東京府　坂谷貞助
福井縣　大和田亮吉
相澤泰助
新潟縣
新潟縣

群馬縣　大關修三
岐阜縣　佐市央
愛知縣　小西賢造
宮城縣　岩淵信
山形縣　木村與惣治
靜岡縣　鈴木謙二

千葉縣　檜垣常治
兵庫縣　藤木政越
群馬縣　大關修三
栃木縣　駒崎佐市
青森縣　松谷央
愛知縣　小西賢造
宮城縣　岩淵信
山形縣　木村與惣治
靜岡縣　鈴木謙二

島根縣　森山ゆく
佐賀縣　石橋みつ
福岡縣　古賀なる
新潟縣　宅島ひか
青森縣　渋澤よし
青森縣　松岡ちか
德島縣　伊藤しけ
埼玉縣　山下さだ
青森縣　田村ゆき
德島縣　須藤ちよ
新潟縣　目黑きみ
岐阜縣　波邊たま
岐阜縣　玉置たま
愛知縣　長尾みつ
愛知縣　氏森あい
群馬縣　吉田すめ
山形縣　岡崎あさの
北海道　石山つや
岩手縣　御津ちや

製絲講習科本科男生（個學生）

清國浙江省嘉興府烏鎮縣　朱鎮邦　清國四川省重慶府永川縣　劉安歡
清國雲南省昭通府鹽津縣　李嘉璦

製絲講習科本科女生（個學生）

清國廣東省潮州府澄海縣　李智子　清國廣東省廣州府南海縣　胡黎綾

武井はぎの
島根縣　三上友子
福岡縣　桜藤かめな
北海道　高木いし
新潟縣　上野まち
栃木縣　伊藤しけ
岐阜縣　中村節明子
靜岡縣　海野珠子
千葉縣　海野いよ
青森縣　藤島とめ
京都府　林田とめ
德島縣　羽坂こあさ
岐阜縣　安江うた
廣島縣　野村しすよ
愛知縣　大塚りと
茨城縣　瀬崎こい子
東京府　加藤くら
青森縣　幸崎つれ
德島縣　中野さとえ

樂園

花の木花翁宗匠選

（三才誌）

秀逸

美しき貝俵や今年米　伊豆　琴子
著返る蝶もめでたき花野哉　甲斐　桃蹄
慈孤に人慈利波して月見哉　相模　道風
海原の友呼ひかはす波鳥　日向　鈴苔
前年に比して婦しや今年米　信濃　東水
月一つかけ樣々の浮世哉　備後　枯竹
小夜更て雷信る里や蟲砧　丹波　角堂
鶯みくだす新米の船や今年米　信濃　秋々
飛々に人かけ長き花野哉　和歌山　翠柳
心曾に見るや名の夜の雨の月　岩代　清師
鐘鼓く虎見用せぬ花野哉　豐後　歳華
慈然深き我の憂みや今年米　廣島　靜月
謂むあとや月の生る涼　近江　松風
婦しきや望の晴て月今宵　上野　花月
山合の空に碌る宵鳥　信濃　梅二
榮行く御代の色香や今年米　英山
海分は兵のみ得なき碌哉　甲斐　不徳の木
船頭も見上る琴や波鳥　岐阜　月友
月夜よし松風黑く海白し　信濃　柴水
こゝに樣さこに情樓の花野哉　三重　一蓋
夜の深み知るや淋の波響さ　武藏　子道

面白き花野の夢や草枕　長門　海柳
水月のつゝや先りや今年米　信濃　墓華
雲に赤り雲なほけけり波鳥　京都　蒼華
山もとし海も弥とし今日の月　伊豫　琴外
急く鳥も暫し休らふ花野哉　大隅　舟橋
月の輪の大きく見ゆる花野かな　甲斐　琴月
打歌めは鶴に夜明の碌哉　信濃　羊年
雀も友の樓なり波鳥　豐前　陸月
月も打つ碌や誰か敲ふり　羽前　華房
渋治橋に今年の米の噂哉　黃波　終夜月を相手や和歌の友
吹分る色や花野の夕あらし　相模　廣丈
何遠えても日本の海そ今日の月　信濃　清梅
月の鶴の羽鳴りや波鳥　伊勢　清梅
碌早き利の羽鳴りや波鳥　出雲　鯨我
月雲にもうつす明り哉　山梨　靜庵
天高く氣も宜て花野哉　愛知　霧花
雲冷や腰も落も波鳥　熊本　鶴月
鶴らはの音や草家の小夜哉　近江　橘友
明月や思はす顔に手を翳す　羽前　月々
早朝も聞心よき碌哉　上野　小林
来塩の時吹て見る月夜哉　武藏　道風
黃昏るゝ涼宵冷る花野哉　信濃　秋花
露と問る梅の露霜や夜半の月　奥城　泉
鈎命手に掛て見る月の影　熊本　待天
船晴の照りに引立つ花野哉　三重　宵月
名月に腹ふ濱の社かな　下野　魁軒
故郷を思ふ雲井や波鳥　上毛　鶴年
錄よりも淋しき寺の長袋　尾張　月
一蓋は馬造らしき花野哉　福島　龍洋
世を想ちす月も氣如の一つ波　三河　其考

波鳥今日は向の林かな　京都　秋琴女
わらんこの捨也なき花野哉　信濃　月村
終夜月を相手や和歌の友　甲斐　成月
月花の浮世忘し蛙かな　上野　刀水
間て来た遠ふみ迷ふ花野哉　埼玉　耳丸
朝月や間水に光る鋼さ宮士　但馬　杜老
波鳥鳴やは林の鶴のうら　信濃　桃里
沼底寸蔑や花野の風あと　信濃　青太
十六夜に切れ鶴もなき月花哉　三重　緑月
歌人は碌も旅の日記哉　遠江　龍波
ほろ酔の顔から冷る花野哉　近江　拔雲
雲鯨もむしし友なり月の鬼　武藏　花園
新米の未た水鶴ねあち供帶　信濃　龜子
香に驚に決の霧るゝ花野哉　周防　さゝや
檜にも秋な見せけり波鳥　三河　春碌
中秋や鶴引藻後に今年米　福島　月々
月今宵鶴の風の鳥とある樣子　常陸　暮雷
海沿るむしも可愛き花野哉　信濃　松榮
山の勞れも見えす波鳥　豐橋　井方
山の月河の中から見しけり　越後　越峯
鳥渡る影やはつさり見ゆる不二　平藏　稻人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蠶海涓滴

△皇太子殿下の韓國行啓は聯合の英斷にして特殊の盛典たり聯國の上下之に依て國恩を啓き敬意を深の誠を了解するあらば國親近の恩禮立つべき歟。

△一度手戈を交へても和親新に復すれば何等の隙意あることなし、協約締結後の日露兩國民互に握手して平和橋梁に立つまで快ならずや快ならずや。

△本邦人の運命に對抗するに過ぎずとは中樞男の組織五部氏の組織蠶業一團の値なしとせん。

△前内閣派は中男の產業組合、松平男の蠶絲業組合及伏夫浦男の武德會を高て唱へ官に勢力拡張に努めたりと雖も紙は論り詰らぬ事々書くものかな。

△紐育絹業協會員は三井三社の行動を自由觀守に反すと爲し三社の座繰生絲に對し重要得る史り瓜別的處置を取るに決議したりと彼等も界道るの後。

△タフト氏の使命は我に移民制限を強ふるにありたりと外紙は報ず果して然らば紐育にあらずして廣東なるべし若人は其說誤ならんか如ぜんとす非ふ。

△善かれ惡かれ自分の儲か為舞ふに忠實なる來國にイタリ好意、友情、御恩と云つて事も我心の儲に爲し得ざる日本の行來不公氣溢ふとは某氏の苦言也。

△韓國農商工部にては金圓三百四十五萬に蠶業傳習所設計に決定し教師は凡て日本人より招聘授業開始は來年三月頃なりとかや蠶之れ蠶業開發の最捷理。

△前橋市安本社座繭製絲とするに反對し工女一百二十名同盟罷工を企て遂に其主張を貫徹す事の骨惜に暫く揆り女軍ナカ〳〵侮る可らず。

△本多紫藤松永の三所長大藝備と上松井農科大學長其他原蠶大家の賛助を得たる蠶業大辭典原稿約募集六發表して申込願る紅蠶也と其成功を祈る切。

新刊紹介

通俗蠶業教科書

農學士　林　瑞作著

甲種蠶業學校及蠶業講習所等に於ける教科書に充て、無て當業者の參考に供せんがためめて著述せるものなりと云て刊行せられたる本書は、著て著者の目前に浦へ、一版は一版より出て直讀者の歓迎する所となり、去三十五年五月初版發行以來こゝに六星霜を閲して版を重ねること正に十有一、世に蠶業に關する著書多しと雖も、恐らく本書の如く歓迎を受けたるものあるべし、人好んで丸山寄の弗箱なりと稱するも向に所以あるこなり、學に忠實にして業に親切なる著者は、蠶務報の間に筆を執り、既に大に勤勞の面目を改めて教師版を發刊せられたれば、其讀者は特益すや到底必來の此にあらざるべし、編者は敢て江湖の士に祝く之れを新分紹介する者なり。（正價金壹圓貳拾五錢發行所東京市日本橋區笹屋町十四番地丸山舍）

改質驗栽桑法

照井想太郎述

新潟縣の桑園は頗る至廣して年々の益利多大なるものあるより、縣當局者は之が改良を圖るこゝ、秋田縣の蠶業傳習家照井氏を聘し、今現に實地指導の新に當らしめつゝあるこなる新、本書は氏が赴任早々同縣中蒲原郡五泉町に於て、第一部講習所に願ひつゝ、しく枠せられたるものなり、机上の空論を避け實地を踏まれたる同氏に關する所が華部講習所に願ひつゝ、しく枠せられたるものなり、机上の空論を避け實地を踏まれたる同氏

AVIS.

1°. Le bulletin de l'Association s ricicole du Japon est l'organe des membres de cette societé qui compte actuellement plus de 16,807 membres.

2°. Cette Association a pour but de développer toutes les industries de la soie en publiant un rapport mensuel, dans lequel il sera mentionné tous les faits et études sur la soie émanant de savants et intéressés.

3°. Dans ce rapport sera inscrit dans les langues européennes le mouvement mensuel de la Condition des soies de Yokohama, lequel sera distribué aux intéressés étrangers.

4°. L'Association recueillera et publiera les essais et études faits par les interessés étrangers en matière des soies.

La Direction de l'Association Sériciicole du Japon.

NOTICE.

1) The report of the sericultural Association of Japan are intended to serve the interest of the members of the association, whose number is over 16.807

2) This association has for its object the development of all silk industries by publishing a monthly report containing the facts and studies on silk by specialists and persons interested in silk.

3) In this report the monthly statement of the Yokohama Silk Conditioning House will be published in a European language for distribution among foreigners interested in silk.

4) The association will collect and publish articles and studies foreigner of topics concerning silk.

The Direction of the Sericultural Association of Japan.

人事彙報

▲伯爵松方正義氏　本會特別會員なる松方伯には俊爵に陞授せられたり
▲松岡康毅氏　本會特別會員にして農商務大臣なる同氏には旭日大綬章を授けられたり
▲男爵平田東助氏　本會特別會員なる平田男には旭日大綬章を授けられたり
▲男爵有地品之允氏　本會特別會員なる有地男には勳一等に叙し瑞寶章を授けられたり
▲田中芳男氏　本會特別會員なる同氏には勳一等に叙し瑞寶章を授けられたり
▲徐爵松平康莊氏　本會特別會員なる松平侯には勳三等に叙し瑞寶章を授けられたり
▲伯爵正親町實正氏　本會特別會員なる正親町伯には勳四等に叙し旭日小綬章を授けられたり
▲男爵船越衛氏　本會評議員なる船越男には旭日重光章を授けられたり
▲高橋新吉氏　本會監事なる同氏には勳四等に叙し旭日小綬章を授けられたり
▲桑田熊蔵氏　本會理事なる同氏には勳四等に叙し旭日小綬章を授けられたり
▲鈴木梅太郎氏　本會特別會員なる同氏には東京帝國大學教授盛岡高等農林學校教授なるを以て本會特別會員に任ぜられたり
▲山本小源太氏　本會通常會員にして農商務省技師なる同氏には八級俸下賜せられたり
▲増田由之氏　本會通常會員にして水所技師なる同氏には生絲檢査所十等技師なる同氏には生絲檢査所十級俸下賜せられたり
▲稲生文作氏　本會通常會員にして水所技師なる同氏には生絲檢査所十等技師なる同氏には生絲檢査所十級俸下賜せられたり
▲今志修敬氏　本會通常會員にして靜岡縣農商務部長なる同氏には八級俸下賜せられたり
▲其中直道氏　本會特別會員にして靜岡縣農商務部長なる同氏には八級俸下賜せられたり

交詢餘錄

（注本欄には單に自己營業の書籍に過ぎざるものは掲載せず）

◉古書・要望・譲渡・賣絲業に關する古書を譲り受けたし御所持の方は御通報を乞ム

寄附金

金百圓　東京市牛込區矢來町四伊藤方宅島林造

右本會へ寄附せられたるを以て本會は之を受領し基本金に入れたり

大日本蠶絲會報廣告料

	特等	並等
一回乃至（一回ニ付）	一頁半頁十五圓	一頁半頁一四分ノ一頁
三回乃至（六回ニ付）	一頁半頁八圓五十錢	一頁半頁五圓
十二回	一頁半頁七圓	一頁半頁十二圓
七回	一頁半頁四圓	一頁半頁十圓
四回	一頁半頁十圓	一頁半頁六圓
三回乃至（一回ニ付）	一頁半頁六圓十錢	一頁半頁三圓五十錢
十五圓	一頁半頁五圓	一頁半頁八圓
八圓五十錢	一頁半頁四圓	一頁半頁五圓
六圓	一頁半頁三圓	一頁半頁三圓
三圓五十錢	一頁半頁一四分ノ一頁	
一回以上（一回ニ付）	一頁半頁一四分ノ一頁	
十圓	一頁半頁一四分ノ一頁	
六圓	一頁半頁一四分ノ一頁	
五圓十錢	一頁半頁一四分ノ一頁	
八圓	一頁半頁一四分ノ一頁	
五圓	一頁半頁一四分ノ一頁	
三圓	一頁半頁一四分ノ一頁	

會員ハ右料金ノ二割引トス
特等ハ四分ノ一頁未滿ハ掲載セス
料金ハ前金ニアラサレハ掲載セス
一頁ハ一行二十七字詰七十二行トス

◉本報定價　一冊金拾五錢　一ヶ年分前金壹圓七拾錢

明治四十年十月二十日印刷發行

編輯兼發行人　東京市神田區美土代町三丁目二番地　小池市松
印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　太郎
印刷所　東京神田區美土代町二丁目一番地　島連
發行所　東京市神田區美土代町三丁目二番地　三秀舍活版所
大日本蠶絲會
（電話本局一四七三番）

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK.

	Soie. Silk.					Maximum du prix. Highest prices.
ours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	Noms des filateurs. Names of filatures.	Prix. Prices.
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*		*Yen*
1	—	—	—	—	——	——
2	409	306	—	—	Hirasmotoseishijô.	1.450
3	327	200	—	—	Kiyosawaseishijô.	1.310
4	680	235	14	312	Iônansha.	1.470
5	329	310	47	115	Nittôsha.	1.450
6	1.633	121	33	787	——	——
7	775	170	10	277	Tôkôsha.	1.410
8	—	—	—	—	——	——
9	1.079	345	17	—	Tôeisha	1.315
10	626	286	9	144	——	——
11	584	187	5	395	Tenminsha.	1.380
12	568	1.066	7	—	Nakainagumi.	1.370
13	820	195	4	—	Shummeisha.	1.390
14	476	299	4	537	Tôkôsha.	1.370
15	—	—	—	—	——	——
16	1005	566	10	—	Orikabeseishijô.	1.370
17	826	391	5	—	Kokuhôsha.	1.410
18	140	354	20	593	Tôkôsha.	1.380
19	682	618	5	—	Katakuragumi.	1.260
20	917	583	7	—	Manzawaseishijô.	1.450
21	668	246	65	1.033	Hakusensha.	1.420
22	—	—	—	223	——	——
23	1.104	515	3	—	Kesengumi.	1.360
24	—	—	—	132	——	——
25	930	859	21	552	Shummeisha.	1.380
26	934	286	64	—	Nakanokwan.	1.360
27	547	487	7	—	Shummeisha.	1.395
28	744	832	18	683	Kôeisha.	1.355
29	—	—	—	—	——	——
30	1.107	649	26	—	Tôkôsha.	1.365
31	—	—	—	—	——	——
Total	17.970	10.106	401	5.783		——

1 yen vaut environ fr. 2.50. 1 Pical = 60 kilg. environ.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Septembre 1907.)

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(September 1907.)

	Report.	Brought over.	Arrivé. Arrived.	Vendu. Sold.	Exporté. Export.	Renvoyé. Sent back	Arporter.	Brought forward.
	Picul.	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*
Filature. Filature.	3.783	13.343	6.770	—	339	9.918		
Zagura. Reeel.	1.304	2.633	1.590	—	30	2.216		
Kakeda. Orikayashi.	807	1.965	1.546	—	29	1.126		
Autres. Other.	53	1	—	—	6	48		
Total.	5.846	17.970	10.006	5.783	401	13.308		
1906.	8.865	10.953	10.142	9.027	149	9.463		

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Citons sommairement la situation de notre marché au mois de Septembre.

Pendant la première dizaine, les stocks ayant été réduits, comme continuation de la fin du mois précédent, *Shinshu* extra No. 1 s'est vendu à des prix élevés de yen 1,315 et la soie à terme, de yen 1,320. Mais après la réparation des voies de communication interrompues par l'inondation, l'arrivage des marchandises a augmenté; mais presque toutes les maisons n'osant faire des achats, les prix ont accusé graduellement la baisse, baisse de 70 yen pour Extra No. 1 et de 6 yen en ce qui concerne la soie à terme. Mitsui, yei ichiban et les autres maisons commençant de grands achats le 16 courant, le marché présent a tout à coup de vive activité, et les prix accusèrent quelque hausse. Mais ce ne fut qu'un phénomène éphémère. Bientôt les prix ne tardèrent pas à baisser de 35 yen, l'accalmie vint de régner sur notre place. A la fin du mois, cependant, on a regagné à peine une hausse de 35 yen.

Voici d'ailleurs les tableaux indiquant le mouvement des soies durant la même période.

MARKET OF YOKOHAMA.

The condition of the Yokohama raw-silk market in the first ten days of September remained just as in the last ten days of the preceding month, the complaint about the dearth of articles being heard everywhere. Extra No. 1 of *Shinshu* commanded such a high price as Y. 1,315, while the regular silk was quoted at Y. 1,320. With the recovery of the interrupted communication with the inundated provinces, articles were gradually arriving on the market from the country. But as all firms maintained an attitude of reserve, the quotations showed a gradually declining tendency. As the result, extra No. 1 and regular silk now got a falling of Y. 70 and Y. 6 respectively. On the 16th, Mitsui and Jardine and Matheson began to do brisk transactions, so that the market showed some activity. In consequence, the quotations recovered their upward tendency, and a deal of transactions was made. But this condition was not steady, so that the prices fell, after a while, by Y. 35, and the condition of the market presented a somewhat dull aspect. Coming to the end of the month, however, this unsatisfactory state of things was at length ameliorated and the quotations again rose by Y. 35.